

# HP Performance Manager

Windows®、HP-UX、Solaris オペレーティングシステム用

ソフトウェア バージョン : 8.10

---

## 管理者ガイド

マニュアルのリリース日付 : 2008 年 6 月

ソフトウェアのリリース日付 : 2008 年 6 月



## 法律上の通知

### 保証

HP 製品およびサービスに関する保証条件は、製品およびサービスに付属する保証書に明示された保証条件に限定されます。本ドキュメントの記載内容はいかなる追加保証をも行うものではありません。HP は、本文書内の技術上または編集上の誤りや遺漏について責任を負わないものとします。

本ドキュメントに記載した情報は、予告なく変更されることがあります。

### 制限付き権利

機密コンピュータ ソフトウェア。所有、使用、コピーには、HP が発行する有効なライセンスが必要となります。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメント、商用アイテムのテクニカルデータは、FAR 12.211 および 12.212 に従い、米国政府のベンダー標準商業ライセンスのもと、ライセンスを取得しています。

### 著作権情報

© Copyright 2007-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標情報

Java™ およびすべての Java ベースの商標とロゴは、米国およびその他の各国のサン・マイクロシステムズ社の登録商標です。

Microsoft®、Windows NT®、Windows®、MS Windows® は、マイクロソフト社の米国登録商標です。

Oracle® は、オラクル社（カリフォルニア州レッドウッド）の米国登録商標です。

Open Software Foundation® は、米国およびその他の各国のオープン グループの登録商標です。

Pentium® は、インテル社の米国登録商標です。

UNIX® は、オープン グループの登録商標です。

### オープン ソースについて

本製品には、OpenSSL ツールキットで使用するために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>)。

本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) 氏によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) 氏によって作成されたソフトウェアが含まれています。

## ドキュメントの更新

このガイドのタイトル ページには、次の識別情報が記載されています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ソフトウェアのリリース日付。ソフトウェアの本バージョンがリリースされた日付を示します。

最新の更新を確認し、最新版のドキュメントを使用しているかどうかを確認するには、次の URL にアクセスしてください。

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

また、製品のサポート サービス契約を締結していただくことにより、更新版または最新版がお客様に送付されます。詳細は、HP の営業担当者にお問い合わせください。

## サポート

以下に示す HP Software サポート Web サイトを参照してください。

**<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>**

この Web サイトには、HP が提供する製品、サービスおよびサポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

HP オンライン ソフトウェア サポートは、お客様の問題解決に役立つ機能を提供しています。対話形式による技術サポート ツールにより、お客様のビジネス管理に必要な情報をすばやく効率的に手に入れることができます。このサポート サイトでは、次のことが可能です。

- 重要なナレッジ ドキュメントの検索
- オンラインでの改善要求の提出
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート依頼の提出および経過の追跡
- サポート契約の管理
- HP サポート連絡先のお問い合わせ
- 利用可能なサービスについての情報の参照
- 他のソフトウェア ユーザーとの情報交換の場への参加
- ソフトウェア トレーニングの検索および参加登録

これらのサポート項目をご利用いただくためには、HP Passport ユーザーとしての登録の後、ログインしていただくことが必要となります。また、いくつかのサポート項目は、サポート契約中のユーザーにのみ提供されています。

アクセス レベルの詳細については、次の URL を参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**

HP Passport ID を登録するには、以下にアクセスしてください。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**



# 目次

1	このドキュメントで使用される表記法	9
2	バージョン比較表	13
3	管理のタスク概要	21
	Performance Manager へのアクセス	21
	Performance Manager のコマンド	22
	Performance Manager へのログオン	23
4	Performance Manager の設定	25
	Performance Manager ライセンス キーのインストール	25
	ローカライズされた言語での Performance Manager	26
	タイムゾーンについて	26
	Performance Manager のセキュリティ設定	26
	Secure Sockets Layer (SSL または HTTPS) の使用	27
	セキュアな通信を無効にする	27
	Tomcat アプリケーション サーバーで SSL または HTTPS を使用する	27
	Web サーバーのポート設定の変更	29
	セッションのタイムアウト間隔の設定	30
	自動更新の間隔の設定	30
	Java 仮想マシン メモリの設定	31
5	他の HP Software 製品の統合	33
	HP Interconnect の統合	34
	Performance Agent、EPC、Reporter、および SPI からのデータ収集	34
	通信プロトコル	35
	Operations Agent および Performance Agent とのセキュアな通信の設定	36
	Operations Agent とのセキュアな通信	36
	Performance Agent とのセキュアな通信	36
	証明書のインストール	36
	HP Reporter の統合	41
	ログ ファイルのプロキシ化	43
6	ノードの管理	45
	デフォルト ノード グループの管理	45
	HP Operations Manager からノード リストをインポートする	45
	ノードのバッチ アップロード	46

7	フラット ファイルの管理	49
	フラット ファイルの形式	50
8	顧客およびユーザーの設定	51
	顧客の設定	51
	ユーザーの設定	51
9	URL パラメータからのグラフの作成	53
10	バッチによるグラフの実行	55
	出力ファイルの管理	56
	キーワード	57
11	Performance Manager の日常的なメンテナンス	69
12	グラフ テンプレートの管理	71
	グラフ テンプレート ファイルの編集	71
	グラフ テンプレートのデザイン カスタマイズ	73
	ユーザー設計したグラフの恒久的な使用	74
	表グラフの行数の設定	75
13	トラブルシューティングのヒント	77
	データ表示エラーのトラブルシューティング	77
	データ コレクタを使用した Performance Manager のトラブルシューティング	77
	Performance Manager ホーム ページに内容が表示できない	77
	Microsoft Excel および TSV 形式のデータが表示できない	79
	ポイント間隔の値を 1 時間より大きい値に設定した場合に、データが表示されない	80
	印刷ビューまたは ovpmbatch 出力でグラフを表示できない	80
	新しいセッションを開始しているのに、以前のグラフが表示される	80
	見つからないデータが識別できない	81
	Performance Manager サーバーのトラブルシューティング	82
	Performance Manager が自動的に起動しない	82
	Performance Manager にアクセスすることができない	82
	グラフ作成中のメモリ不足エラー	83
	お気に入りのグラフ ファミリーが表示できない	84
	ユーザー定義グラフが表示できない	84
	Performance Manager ノードリストが表示できない	84
	このプログラムの使用は承認されていません、というエラーが表示される	85
	HTTP ステータス 404 - /OVPM エラー	85
	バッチ モードでアップロードしたノードが表示されない	86
	Internet Explorer で、同時に 2 つを上回るグラフ作成の要求を送ることができない	86
	Reporter 3.80 の統合が正常に行われない	86
	OutOfMemoryException	87
	初回のシステム接続時、非常に時間がかかる	87
	ノードを管理オプションが使用できない	88
	Hotfix for Performance Manager が正常に配備されたか確認できない	88

統合関連のトラブルシューティング .....	89
<b>HP Operations Manager (HPOM) の統合</b> .....	89
<b>Performance Manager</b> のインストール後、 <b>Tomcat5.0 (OvTomcatA)</b> がホストする他の アプリケーションまたは製品へのアクセスができない .....	89
アップグレード関連のトラブルシューティング .....	90
<b>Performance Manager 8.10</b> にアップグレードした後、フィルタが作動しない .....	90
<b>Performance Manager</b> へのアップグレード後、 <b>Performance Agent</b> をデータソースとして デザインしたグラフが、 <b>EPC</b> に変更される .....	90
<b>A OVPConfig.ini パラメータ</b> .....	91





# 1 このドキュメントで使用される表記法

このドキュメントでは、**HP Performance Manager** サーバー システム上のファイルの場所を参照する場合、以下の表記法が使用されます。



スラッシュは、**UNIX** システムではフォワードスラッシュ "/"、**Windows** システムではバックスラッシュ "\" と表記されます。このドキュメントでは、フォワードスラッシュ "/" は例および指定に使用されます。

表記法	説明	Windows システム上	UNIX システム上
<install_dir>	<b>Performance Manager</b> がインストールされたディレクトリ。	デフォルトのインストールディレクトリは C:\Program Files\HP\HP BTO Software です。お使いのシステムに <b>OpenView Performance Agent</b> 、 <b>OpenView Reporter</b> または <b>OpenView Operations</b> などの旧バージョンの <b>HP Software</b> 製品がインストールしてある場合、デフォルトの <b>Performance Manager</b> インストールディレクトリは C:\Program Files\HP OpenView です。	<b>HP-UX</b> および <b>Solaris</b> システムでは、インストールディレクトリは /opt/OV です。
<data_dir>	<b>HP Software</b> 製品に関連するデータファイルおよびログファイルの格納先となる共有データディレクトリ。	<b>Windows 2003</b> では、デフォルトのデータディレクトリは C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software です。 <b>Windows 2008</b> では、デフォルトのデータディレクトリは C:\ProgramData\HP\HP BTO Software\ です。 お使いのシステムに <b>OpenView Performance Agent</b> 、 <b>OpenView Reporter</b> または <b>OpenView Operations</b> などの旧バージョンの <b>HP Software</b> 製品がインストールしてある場合、デフォルトのデータディレクトリは C:\Program Files\HP OpenView\data です。	<b>HP-UX</b> および <b>Solaris</b> システムでは、データディレクトリは var/opt/OV です。

表記法	説明	Windows システム上	UNIX システム上
<PM_data_dir>	Performance Manager データファイルが保管されるディレクトリ。	Windows では、デフォルトの Performance Manager データ ディレクトリは <data_dir>\shared\server\ です。 しかし、Windows クラスタ環境でのデフォルトのデータ ディレクトリは別の場所です。詳細については、 <i>HP Performance Manager インストール、移行、およびアップグレードガイド</i> の Performance Manager のクラスタ環境でのインストールを参照してください。	HP-UX および Solaris システムでは、Performance Manager データ ディレクトリは /var/opt/OV/shared/server です。
<java_dir>	Java 1.50 SDK がインストールされたディレクトリ。	Windows システムでは、デフォルトの Java ディレクトリは C:\Program Files\HP\HP BTO Software\nonOv\jre\b です。 お使いのシステムに OpenView Performance Agent、OpenView Reporter または OpenView Operations などの旧バージョンの HP Software 製品がインストールしてある場合、デフォルトの Performance Manager Java ディレクトリは C:\Program Files\HP OpenView\nonOv\jre\b です。	HP-UX および Solaris システムでは、Java ディレクトリは /opt/OV/nonOV/jre/b です。
<tomcat_dir>	Tomcat アプリケーション サーバーがインストールされたディレクトリ。	Windows システムでは、デフォルトの Tomcat ディレクトリは C:\Program Files\HP\HP BTO Software\nonOv\tomcat\b です。お使いのシステムに OpenView Performance Agent、OpenView Reporter または OpenView Operations などの旧バージョンの HP Software 製品がインストールしてある場合、デフォルトの Performance Manager Tomcat ディレクトリは C:\Program Files\HP OpenView\nonOv\tomcat\b です。	HP-UX および Solaris システムでは、Tomcat ディレクトリは /opt/OV/nonOV/tomcat/b です。

表記法	説明	Windows システム上	UNIX システム上
<systemname>	<p><b>Performance Manager</b> サーバーが実行されているシステムの名前。</p> <p><b>Performance Manager</b> に Web ブラウザからアクセスする場合、この変数を実際のシステム名、あるいはシステムの IP アドレスに置き換え、ネットワーク名のサーバーが</p> <p><b>Performance Manager</b> システムに解析できるようにする必要があります。</p>		



## 2 バージョン比較表

次の表は、OpenView Performance Manager 6.00 と Performance Manager 8.x のユーザー インターフェイス、管理インターフェイス、ユーザー ログオンおよびユーザー セッションタイムアウト間隔などの機能の変更点の一覧です。

表 1 全般

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
管理インターフェイス	はい。	はい。 管理オプションは、別々のユーザー インターフェイスでは使用できませんが、Performance Manager ユーザー インターフェイス自体では使用可能です。 管理者は、Performance Manager ユーザー インターフェイスの <b>管理</b> メニューの各種オプションを使用して、ノード、ユーザー、顧客の管理を行うことができますようになりました。 管理メニューの <b>ノードを管理</b> オプションおよび <b>ユーザーを管理</b> オプションは、管理者権限を持つユーザーのみ使用可能です。
デュアルインターフェイス	はい。	いいえ。 Performance Manager の本バージョンでは、単一の Web ベースのユーザー インターフェイスを使用しており、Web ブラウザに JRE プラグインは必要としません。
すべての顧客ログオン	はい。 Performance Manager 管理者は、「すべての顧客」ログオンを使用し、管理のタスクを実行することができます。	いいえ。 管理者としてログインするのに、「すべての顧客」ログオンは使用できません。その代わりに、空欄の顧客ログオンを使用して、ノード、顧客、ユーザーを管理することができます。

表 1 全般 (続けて)

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
パスワードの変更	いいえ。	はい。 Performance Manager の本バージョンでは、 <b>管理メニューのパスワードの変更オプション</b> を使用して、パスワードを変更することができます。
セッションのタイムアウト間隔の設定	いいえ。	はい。 本 Performance Manager では、ユーザーセッションのタイムアウト間隔を設定することができます。 詳細については、 <a href="#">ページ 30 のセッションのタイムアウト間隔の設定</a> を参照してください。
エージェントとのセキュアな通信	はい。	はい。 セキュアな通信を設定する方法については、 <a href="#">Operations Agent および Performance Agent とのセキュアな通信の設定</a> を参照してください。

OpenView Performance Manager 6.x および Performance Manager 8.10 のデータディレクトリ構造は、以下のとおりです。

表 2 ディレクトリ構造

ディレクトリ構造	Performance Manager 6.x	Performance Manager 8.x での使用
データディレクトリおよびデータファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows システムで、デフォルトのデータディレクトリは C:\Program Files\HP openview\data で、OVPM データファイルは、&lt;data_dir&gt;/conf/perf から取得できます。</li> <li>HP-UX および Solaris システム上で、データディレクトリは /var/opt/OV で、OVPM データファイルは、/var/opt/OV/conf/perf から取得可能です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2003 では、デフォルトのデータディレクトリは C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software です。</li> <li>Windows 2008 では、デフォルトのデータディレクトリは C:\ProgramData\HP\HP BTO Software\ で、Performance Manager データファイルは、&lt;PM_data_dir&gt;\conf\perf から取得できます。</li> <li>HP-UX および Solaris システム上で、データディレクトリは /var/opt/OV で、Performance Manager データファイルは、/var/opt/OV/shared/server/conf/perf から取得可能です。</li> </ul>

Performance Manager 8.x の新機能および改善した機能の一覧表を、以下に示します。

**表 3 Performance Manager ユーザー インターフェイスの機能**

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
グラフの作成	はい。 作成機能は、「表示」タブを使用します。	はい。 作成機能は、「作成」ボタンを使用して、すぐに使用できるサンプル グラフおよびユーザー定義 グラフを作成することができます。
グラフのデザイン	はい。 グラフのデザイン オプションは、「デザイン」タブを使用します。	はい。 グラフのデザイン機能は、デザイン ウィザードを使用します。デザイン ウィザードの段階的なアプローチにより、グラフのデザインまたは編集を行います。 デザイン ウィザードを使用して、システム比較 グラフ、インスタンス比較グラフ、マルチソース グラフ、予測グラフなどをデザインすることができます。また、この機能を使用して、既存のグラフを編集することもできます。 グラフ メニューの「グラフのデザイン」オプションを使用して、グラフをデザインすることもできます。
お気に入り	いいえ。	はい。 お気に入りリストを作成し、そこにグラフを追加することで、次回、指定したグラフを見つけやすくなります。
お気に入りグラフをホーム ページとして設定	いいえ。	はい。 お気に入りグラフをホーム ページとして設定し、開くことができます。詳細については、 <b>HP Performance Manager</b> オンライン ヘルプまたは <b>HP Performance Manager</b> チュートリアルを参照してください。
ドリルダウン	はい。	はい。 本バージョンでは、ドリルダウン機能が向上しました。パフォーマンス データを表形式またはグラフ形式でドリルダウンし、ご希望の精度でデータを表示することができます。また、データを表形式で表示する際、セルの内容を強調表示およびフィルタをかける条件を設定することもできます。

表 3 Performance Manager ユーザー インターフェイスの機能 (続けて)

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
拡大および縮小	<p>はい。</p> <p>ただし、段階的な縮小オプションは使用できません。グラフを縮小すると、常にグラフは元の状態にリセットされます。</p>	<p>はい。</p> <p>グラフを拡大するには、マウスをクリックしたまま、左から右へ移動し、矩形領域を形成するようにドラッグします。また、縮小するには、マウスを右から左にドラッグします。</p> <p>グラフを拡大および縮小すると、さまざまな要約レベルでデータを表示することができます。</p> <p>前バージョンからの改善点として、Performance Manager 8.00 では、段階的な縮小オプションが使用できます。グラフを縮小すると、グラフは一つ前の状態にリセットされます。</p>
通信プロトコルの自動検出	<p>いいえ。</p> <p>このバージョンでは、Performance Manager にシステムを追加する際、CODA や MWA などのプロトコル設定を行う必要があります。</p>	<p>はい。</p> <p>Performance Manager でグラフのデザインまたは作成中に、自動的に HP Performance Agent または HP Operations Agent が設定されている通信プロトコルを検出します。Embedded Performance Component (EPC) または Performance Agent、あるいはその両方(これらの収集元が同じシステムで稼働中の場合)に記録されたデータを使用して、グラフをデザインまたは作成することができます。</p>
自動更新の間隔の設定	<p>いいえ。</p>	<p>はい。</p> <p>Performance Manager 管理者は、Performance Manager が作成されたグラフを自動更新する間隔を設定することができます。</p> <p>詳細については、ページ 30 の自動更新の間隔の設定を参照してください。</p>
ノードの遅延ロード	<p>いいえ</p>	<p>はい。</p> <p>グループ内のノードは、該当するノードグループ ツリーを拡張した場合にのみロードされます。</p> <p>このオプションにより、Performance Manager により管理されているノードが多数に及ぶ場合、Performance Manager の作業効率環境が改善します。</p>



表 3 Performance Manager ユーザー インターフェイスの機能 ( 続けて )

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
ノードのバッチロード	はい。	はい。 データソースによりノードを分類するための SystemsMWA.txt ファイルおよび SystemsCODA.txt ファイルは使用できません。その代わりに、本バージョンでは、ノードおよびノードグループを pmsystems.txt ファイルに追加することで、ノードをバッチアップロードすることができます。ノードのバッチロードについての詳細は、ページ 46 のノードのバッチアップロードを参照してください。 デフォルトのノードグループは All です。また、ノードをノードグループに追加する際に、そのノードを自動的にデフォルトのグループに追加するよう設定することもできます。詳細については、ページ 45 のデフォルトノードグループの管理を参照してください。
グラフ リスト	はい。 このバージョンでは、グラフ リストには、グラフの作成またはデザイン用に選択したノードに基づいてグラフが表示されます。	はい。 グラフ リスト ペインに表示されるグラフは、選択したノードと関係なく同じものとなります。
作成されたグラフの近接期間のデータを表示	いいえ。	はい。 Performance Manager の本バージョンでは、次へおよび前へボタンにより、近接期間のパフォーマンス データを同じ要約レベルで表示することが可能となります。これらのボタンを使用し、パターンを識別し、問題を隔離することができます。
作成されたグラフの近接期間のデータ取得	いいえ。	はい。 このバージョンでは、同じソースから、近接期間のデータの取得を選択することができます。また、前のデータを付加および次のデータを追加ボタンを使用し、1 つのグラフ内でデータの要約レベルを高めて表示することができます。

表 3 Performance Manager ユーザー インターフェイスの機能 (続けて)

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
マルチ インスタンス メトリックのインスタンス指示	はい。	はい。 マルチ インスタンス メトリックでグラフを作成する場合、Performance Manager から 1 つまたは複数のインスタンスを選択するよう指示が出され、関連するインスタンスのデータのみを表示することができます。 インスタンス指示オプションは、 <b>インスタンスの選択</b> オプション ( <b>グラフ</b> メニュー内) で「オン」または「オフ」に設定することで、有効または無効にすることができます。
データソース、汎用データベース、HP OpenView インターネット サービスのサポート	はい。	いいえ。
フラット ファイル データソースのサポート	はい。	はい。 データソースとしてのフラット ファイルの使用は、Performance Manager バージョン 8.00 ではサポートされていません。
シフトおよび休日	はい。	いいえ。
OVPMEexclude.txt を使用して、HP Reporter からのシステム グループ除外設定	はい。	いいえ。
見つからないデータの表示設定	はい。	いいえ。 本バージョンでは、グラフ上で見つからないデータの非表示、前へ、ゼロなどのオプションは、使用できません。 その代わりに、グラフのデザイン中に、マーカーを指定して、グラフ上で取得可能なデータ ポイントを表示することができます。これで、特定の区間に見つからないデータ ポイントが識別可能となります。
作成されたグラフのメトリック非表示 / 表示オプション	はい。	いいえ。

表 3 Performance Manager ユーザー インターフェイスの機能 (続けて)

機能	Performance Manager 6.00 での使用	Performance Manager 8.x での使用
メトリック レベル フィルタの複数 フィルタ	はい。 複数のフィルタを使用する場合は、"AND" および "OR" などの論理演算子により指定することができます。	はい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Performance Manager ユーザー インターフェイスでは、グラフのデザイン中、オプション ボタンの演算子 "AND" および "OR" を選択することにより、メトリックのプロパティを特定するときに、複数のメトリックを特定することができます。</li> <li>また、グラフ テンプレートを修正して、複数のフィルタを指定することができます。その場合、"AND" および "OR" などの論理演算子を使用します。たとえば、<b>FILTER: SYSTEMNAME=MYOWNSYS&amp;&amp;APP_NAME=Other</b> と指定すると、システム名 "MYOWNSYS" およびアプリケーション名 "Other" のシステムからのみデータを選択します。</li> </ul> 演算子 "OR" または "AND" のうち、どちらか 1 つのみ使用することができます。これらの演算子 2 つを組み合わせることはできません。
"=@" フィルタ	はい。 "=@" は、データソースからの値すべてに一致する特別な場合に使用され、それぞれの値はメトリックに分けられます。	いいえ。 Performance Manager では、"=@" フィルタはサポートされません。 ただし、メトリックのラベルで @@<Metric Name> を指定すると、データソースからのそれぞれの値が、単一のメトリックに分けられます。マルチインスタンス メトリックの場合、メトリックのラベルには、自動的に @@<instance metric> が追加されます。
メトリック フィルタ、表フィルタ、表の強調表示の "*" 表現	はい。	いいえ。 Performance Manager は有効かつ標準の表現のみをサポートします。
authip_vpi ファイルを使用して顧客の承認セキュリティの有効化	はい。	いいえ。

Performance Manager 8.x では使用できないキーワードの一覧表を、以下に示します。

表 4 バッチのパラメータ

キーワード	Performance Manager 6.0 での使用	Performance Manager 8.x での使用
バッチによるグラフの実行	はい。 このバージョンで、バッチ処理を実行するには、Performance Manager が稼働中であることが必須となります。	はい。 バッチ処理を実行するときに Performance Manager サーバーが稼働中である必要はありません。
グラフのサブタイトル用キーワード (たとえば @@SHIFT、@@SKIPDAYS、@@SHOWDAYS、@@NOHOLIDAYS など)	はい。	いいえ。
GRID、GRIDHORIZ、GRIDVERT、PIXELSHIGH、PIXELSWIDE、3D、JAVAGRAPHPOINTS、JAVATABLEPOINTS、MISSINGDATA、FILTER、SFMETRIC、SFCOMPARE、SFVALUE、FILLSTYLE、SORTBYLABEL、GROUP。	はい。	いいえ。
Planner およびグラフの仕様 (たとえば BUDATASOURCE、BUSYSTEMNAME、BUEXTENDED、BUCLASS、-init、BUMETRIC)。	はい。	いいえ。
特殊用途の仕様 (たとえば JAVAGRAPHs、ENDOFMETRIC、FORMTEMPLATE、NUMBEROFMETRICLINES、GETNEWFORM、DRAWGRAPH、SAVECONFIG、SAVEGRAPHCMD、LOADGRAPHCMD、DELETEGRAPHCMD、LOADTEMPLATENAME、SAVETEMPLATENAME、LOADGRAPHNAME、SAVEGRAPHNAME、RESETFORM、DISCOVERSYSTEM、SKIN、NOMARKERS、NOTOOLBAR、TOOLBAR)。	はい。	いいえ。

Performance Manager 8.00 で使用可能なパラメータは、ページ 55 のバッチによるグラフの実行を参照してください。

## 3 管理のタスク概要

Performance Manager は、エンドユーザーに対して Web ベースのユーザー インターフェイスを提供しています。このインターフェイスは、データをグラフ、表、スプレッドシートなどのさまざまな形式で表示するために使用できます。エンドユーザーが Performance Manager インターフェイスを使用して作業を効率よく進めるために、Performance Manager 管理者は、次のタスクを実行する必要があります。

- セキュリティ ポリシーの設定
- 試用および正式なライセンス キーの管理
- Performance Manager ワークスペースの設定
- データソースへの接続設定
- 出力ファイルおよびディスク容量の管理

### Performance Manager へのアクセス

Performance Manager に非セキュア モードでアクセスするには、次の URL を使用します。

**http://<systemname>:8081/OVPM**

Performance Manager にセキュア モードでアクセスするには、次の URL を使用します。

**https://<systemname>:8444/OVPM**

この場合、<systemname> は、Performance Manager がインストールされているシステムを指します。Performance Manager がクラスタ環境にインストールされている場合、<systemname> をクラスタの名前に置き換えてください。クラスタ設定で Performance Manager をインストールする方法についての詳細は、*HP Performance Manager インストール、移行およびアップグレードガイド*を参照してください。

また、Performance Manager は、HP Operations Manager for Windows コンソールのコマンドライン インターフェイスからアクセスすることも可能です。Performance Manager に HP Operations Manager コンソールからアクセスする方法については、HP Operations Manager for Windows のマニュアルを参照してください。

Performance Manager では、URL レファレンスを認識することができるあらゆるアプリケーションから、Performance Manager を呼び出し、グラフを作成することができます。URL にパラメータを入力し、グラフを作成する方法の詳細については、ページ 53 の [URL パラメータからのグラフの作成](#) を参照してください。



インストール中、デフォルトのポート番号 **http (8081)**、**https (8444)**、シャットダウン ポート (**8006**)、**JK2-AJP 13** ポート (**8010**) が他のアプリケーションにより使用されている場合、次の警告メッセージが表示されます。

情報：シャットダウン ポートは使用可能です。

情報：HTTP ポートは使用可能です。

警告：HTTPS ポートは使用されています。インストール後、変更してください。

この場合、Performance Manager のインストールが正常に終了しても、デフォルトのポート番号を使用して Performance Manager にアクセスすることはできません。Performance Manager にアクセスするには、**http**、**https**、シャットダウン、**JK2-AJP 13** ポート設定を変更する必要があります。詳細は、ページ 82 の [Performance Manager にアクセスすることができないのトラブルシューティング](#) のヒントを参照してください。

## Performance Manager のコマンド

コマンドプロンプトで次のコマンドを使用することで、Performance Manager ワークスペースを管理することができます。

`<install_dir>/bin/ovpm <オプション>`

この場合、`<オプション>` には以下のコマンドのいずれかを指定します。

- **status** - Performance Manager 実行ステータスを確認します。
- **start** - Performance Manager アプリケーションを開始します。



**ovpm start** コマンドを実行すると、OvTomcatB を使用するすべてのアプリケーションが開始されます。

- **stop** - Performance Manager アプリケーションを停止します。



**ovpm stop** コマンドを実行すると、OvTomcatB を使用するすべてのアプリケーションが停止されます。

- **config** - Web サーバーのポート設定を変更します。詳細については、ページ 29 の [Web サーバーのポート設定の変更](#) を参照してください。
- **restart** - Performance Manager アプリケーションを停止した後、開始します。
- **license** - 製品ライセンスを確認または更新します。このコマンドを実行すると、AutoPass ユーザー インターフェイスが表示されます。詳細については、ページ 25 の [Performance Manager ライセンス キーのインストール](#) を参照してください。
- **trace** - 詳細なトレース ファイルの生成を開始または停止します。**ovpm trace** コマンドを実行すると、**TRACELEVEL** の値 (OVPMConfig.ini ファイル内) は自動的に 1 に設定され、トレースがオンになります。
- **version** - お使いのシステムにインストールした Performance Manager のバージョンを表示します。

- **uploadsystems** - pmsystems.txt ファイルで指定したノード グループをアップロードします。このコマンドを実行中、"all" を指定しないようにしてください。pmsystems.txt ファイル、およびノードのバッチ アップロードについての詳細は、ページ 46 のノードのバッチ アップロードを参照してください。

▶ アップロード システム コマンドを実行する前に、**Performance Manager** を停止することをお勧めします。

- **deploywar** の「<場所>」- **Performance Manager** の war ファイルの配備および展開に使用します。この場合、**場所**は、war ファイルの場所を意味します。本オプションにより、自動的に以下の操作を行います。
  - a **Performance Manager** アプリケーションを停止します
  - b OvPMWeb.war ファイルを展開します。このファイルは **Performance Manager** 用のバイナリを含みます
  - c **Performance Manager** アプリケーションを開始します

▶ このコマンドを使用して、**HP Performance Manager** のあらゆるホットフィックスを配備します。このコマンドを実行すると、ovpmbatch により生成されたすべてのグラフが削除されます。

## Performance Manager へのログオン

デフォルトでは、**Performance Manager** のログオンにユーザー名やパスワードは要求されません。空欄の顧客に、パスワードが割り当てられていなければ、デフォルトのホーム ページが表示され、**Performance Manager** が起動します。ただし、空欄の顧客にパスワードが割り当てられている場合、このパスワードを使用してログオンしてください。

**Performance Manager** のデフォルトでは、ユーザーは設定されておらず、あらゆる **Performance Manager** クライアントは、グラフおよびユーザーの設定について、同じ領域を共有します。顧客およびユーザーの設定についての詳細は、ページ 51 の顧客およびユーザーの設定を参照してください。

お使いのブラウザ設定で **JavaScript** サポートが有効になっていない場合、**Performance Manager** へのログオン後、空白のホーム ページが表示されます。**JavaScript** サポートを有効にするには、ページ 77 の **Performance Manager** ホーム ページに内容が表示できないのトラブルシューティングのヒントを参照してください。

▶ 本バージョンの **Performance Manager** では、**Performance Manager** ユーザー インターフェイスから管理オプションを使用して、ノードの設定、顧客およびユーザーの設定ができます。**Performance Manager** デフォルト ホーム ページのメニュー オプション「Admin」をクリックして、これらのオプションにアクセスする必要があります。





## 4 Performance Manager の設定

このセクションでは、Performance Manager のインストールが正常に終了した後に実行すべき設定タスクについて説明しています。

### Performance Manager ライセンス キーのインストール

Performance Manager を使用するには、ライセンス キー パスワードが必要です。Performance Manager をインストールして初めて使用する場合は、60 日有効な試用ライセンスが付与されます。製品の使用を継続するには、この 60 日の試用期間内に、正式なライセンス キー パスワードを取得するか、試用期間を延長する必要があります。

正式なライセンスを取得するには、次の手順に従います。

- 1 次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
<install_dir>\bin\ovpm license
```

お使いの Performance Manager ライセンスの状態が表示された後、コマンドラインプロンプト "License Command>" が表示されます。

▶ HP-UX と Solaris システムでは、**ovpm ライセンス** コマンドを実行する前に、AutoPass GUI を適切な表示ウィンドウに送る **DISPLAY** 変数をエクスポートします。

Performance Manager を試用ライセンスで実行している場合は、メッセージ「インスタントオン: はい」、ライセンス有効期限、ライセンス有効期限までの残り日数が表示されます。

正式な製品ライセンスが既にインストールされている場合、メッセージ「HP Performance Manager は永久ライセンスです」が表示されます。

- 2 コマンド **gui** を License Command> コマンドプロンプトで実行します。**HP Autopass** ユーザー インターフェイスが表示されます。画面には次のオプションが表示されます。
  - Retrieve/Install License Key
  - Install/Restore License Key from file
  - Install/Restore License Key through E-mail/Fax
- 3 上記の 3 つのオプションのうち 1 つをクリックし、次の手順に従います。詳細については、*HP Autopass* オンラインヘルプを参照してください。

## ローカライズされた言語での Performance Manager

**Performance Manager** は多言語化されているため、日付、時刻、数字形式などの機能は、クライアントのロケールで使用される言語に従います。通常、ユーザー インターフェイスとマニュアルは英語表記のままですが、日付、時刻、数字形式の設定は、システム ロケールにあわせて変更できます。

**Performance Manager** が特定の言語にローカライズされている場合、英語およびその言語で利用できます。ローカライズ版では、ユーザー インターフェイスの選択項目、**Web** ページ、ログ ファイル、オンライン ヘルプ、ユーザー マニュアルが、特定の言語に翻訳されています。

**Performance Manager 8.10** バージョンは、英語、日本語、韓国語、簡体字中国語で使用できます。

**Performance Manager** サーバーの言語設定がクライアントの言語設定と異なる場合、ユーザー インターフェイスの選択項目、**Web** ページ、ヘルプはクライアントのデスクトップの設定言語で表示されます。**Performance Manager** がクライアントのロケールにローカライズされていない場合、デフォルトではすべての項目は英語で表示されます。

**Performance Manager** を起動する前に、必要に応じてユーザーがシステムの言語設定およびロケール設定を設定する必要があります。これらの設定を変更した後、**Performance Manager** を起動します。

### タイムゾーンについて

**Performance Manager** サーバーとエージェントのタイムゾーン設定が異なる場合、**Performance Manager** の設定が使用されます。**Performance Manager** サーバー、エージェント、クライアントのタイムゾーンがすべて異なる場合は、グラフ作成/プレビュー時に **Performance Manager** サーバーのタイムゾーンが優先されます。

## Performance Manager のセキュリティ設定

**Performance Manager** のセキュリティ設定は、以下の方法で行うことができます。

- **Performance Manager** サーバーへの物理的アクセス制限 - コマンドライン インターフェイスによるシステムのアップロードや、**Performance Manager** ライセンス キーのインストールなどを実行するには、物理的アクセスまたはログオンが必要となります。**Performance Manager** に追加的なシステム ログオンセキュリティを設定することも可能です。たとえば、UNIX サーバーで **Performance Manager** を再設定する場合、root 証明書またはスーパーユーザー証明書によるシステムのログオンが必要になります。
- **Performance Manager** サーバーへのネットワーク アクセス制限 - **Performance Manager** サーバーへのネットワーク アクセスは、分離ネットワークまたはファイアウォールを使用することで制限できます。
- 顧客およびユーザーの設定 - 顧客およびユーザーの設定により、データへのアクセスを制限できます。
- **Web** サーバー ポート設定の変更 - セキュリティを高めるために、デフォルト ポート設定を変更することができます。詳細については、ページ 29 の **Web** サーバーのポート設定の変更を参照してください。
- セキュアな通信の使用 - クライアントとの通信に **Secure Sockets (https)** を使用するように **Performance Manager** を設定することができます。詳細については、下記 **Secure Sockets Layer (SSL または HTTPS)** の使用を参照してください。

## Secure Sockets Layer (SSL または HTTPS) の使用

Performance Manager では、**HTTP** プロトコルと **HTTPS** プロトコルのいずれのアクセスも、デフォルトで有効になっています。デフォルトのポート番号は、**HTTP** ではポート番号 **8081**、**HTTPS** ではポート番号 **8444** となっています。このいずれかのプロトコルを使用するよう選択できます。ただし、管理のタスクを安全に行うために、Performance Manager にセキュアな通信モードでアクセスする必要があります。Performance Manager にセキュアな通信モードでアクセスするには、次の URL を使用します。

```
https://<systemname>:8444/OVPM
```

Performance Manager に非セキュア モードでアクセスするには、次の URL を使用します。

```
http://<systemname>:8081/OVPM
```

また、デフォルトのポート設定を **HTTP** と **HTTPS** の両方の通信に対して、変更することができます。詳細については、ページ 29 の **Web サーバーのポート設定の変更** を参照してください。

### セキュアな通信を無効にする

セキュアな通信を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 Performance Manager が実行中の場合、停止します。
- 2 次のコマンドをコマンド プロンプトで実行します。

```
cd <install_dir>\bin  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set EnableHttps False
```

- 3 Performance Manager を再起動します。

### Tomcat アプリケーション サーバーで SSL または HTTPS を使用する

Tomcat アプリケーション サーバーで **SSL** または **HTTPS** プロトコルを使用する場合、Performance Manager をインストールした後、Tomcat サーバー証明書の取得が要求されます。Performance Manager インストール後に取得された証明書は、次のシナリオで変更することができます。

- **HTTPS** プロトコルを使用して Performance Manager に接続する場合、証明書はシステム名と比較され、両方が一致することが確認されます。名前が一致しない場合、ほとんどのブラウザから警告が発せられ、ユーザーはこの時に、接続を続けるか中断するか決定できます。Performance Manager インストール時に使用した名前が、**HTTPS** ユーザーの使用する名前と異なる場合、別の証明書を取得することが必要となります。
- Performance Manager インストール時に空白のままとなっていた証明書のフィールドを使いたい場合、新しい証明書を取得することが必要となる場合があります。証明書には、多くのフィールドが含まれており、ここに証明書の発行者などの情報を入力し、証明書で有効にしている操作は安全であると保証することができます。Performance Manager のインストール時の証明書では、このようなフィールドのほとんどが空白です。
- デフォルトの証明書パスワードを変更し、不正な変更を防ぐには、既存の証明書を置き換えます。

Tomcat SSL 証明書を置き換える方法は、次の手順に従います。

- 1 既存の証明書を削除します。既存の証明書を削除するには、Keytool と呼ばれる Java SDK プログラムを実行する必要があります。次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
keytool -delete -alias ovtomcatb -keystore /var/opt/OV/certificates/  
tomcat/b/tomcat.keystore
```



既存の証明書を削除し、新しい証明書を作成するためのデフォルト パスワードは *changeit* です。

- 2 Performance Manager サーバーを再起動します。
- 3 新しい証明書を作成します。新しい証明書を作成するには、次のコマンドをコマンドプロンプトに入力し、Keytool を実行します。

```
keytool -genkey -alias ovtomcatb -keyalg RSA -keystore /var/opt/OV/  
certificates/tomcat/b/tomcat.keystore
```

- 4 Performance Manager サーバーを再起動します。

## Web サーバーのポート設定の変更

Performance Manager インターフェイスにアクセスするためのデフォルトの HTTP ポート番号は 8081 です。また、セキュアな接続のためのデフォルトのポート番号は 8444 です。すべてのクライアントシステムは、Performance Manager サーバーに接続する権限を与えられています。

Performance Manager サーバーのデフォルト ポート番号を変更するには：

- 1 ポート番号に使用したい番号が、既に使用されていないか確認するため、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

Windows システム上：

```
cd <install_dir>\bin  
cscript OvTomcatBctl.vbs -checkport <portnumber>
```

UNIX システム上：

```
cd <install_dir>\bin  
ovtomcatbctl -checkport <portnumber>
```

ポートが使用可能か、使用されているかを示すメッセージが表示されます。たとえば、ポート番号 8081 が使用可能かどうかを確認した場合、使用可能であれば、「ポート番号 8081 は使用されていません」というメッセージが表示されます。ポート番号 8081 が使用不可能な場合、このポート番号は他のプログラムまたはサービスにより使用されていますという内容のメッセージが表示されます。

- 2 Performance Manager を停止するため、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
ovpm stop
```

- 3 Performance Manager の http ポート番号を変更するには、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
cd <install_dir>\bin  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPPort <port number>  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPSPort <port number>
```

- 4 Performance Manager サーバーを再起動します。

## セッションのタイムアウト間隔の設定

ユーザーセッションの有効期限時刻またはタイムアウト間隔を設定することができます。指定した期間、ユーザーセッションが稼動していない場合、セッションの期限が切れて、ユーザーはシステムからログアウトされます。すべてのユーザーセッションのデフォルトのタイムアウト間隔は、1時間に設定されています。

デフォルトのタイムアウト間隔を修正するには：

- 1 ovpmconfig.ini ファイル(<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内)を開きます。
- 2 **SESSION\_TIMEOUT** パラメータに、タイムアウト間隔を分単位で指定します。たとえば、30分と指定したい場合、30と入力します。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 Performance Manager を再起動します。



アクティブグラフの**自動更新**オプションが有効になっている場合は、指定した期間にユーザーが何の動作も行わなくても、セッション期限は切れません。

## 自動更新の間隔の設定

Performance Manager 管理者は、自動更新をご希望の間隔に設定することで、Performance Manager により作成したグラフが最新データに自動更新されるよう設定することができます。デフォルトの自動更新間隔は 300 秒です。この設定は、OVPMconfig.ini ファイル (<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内)で行います。

自動更新の間隔に別の値を指定するには、次の手順に従います。

- 1 OVPMconfig.ini ファイル (<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内)を開きます。
- 2 **GRAPH\_AUTOREFRESH\_RATE** パラメータの値を指定します。ここで入力する値は、秒単位となります。たとえば、間隔を 30 秒に指定し、Performance Manager ユーザーインターフェイスの自動更新チェックボックスを選択した場合、作成したグラフに表示されているデータが 30 秒ごとに Performance Manager により自動更新されます。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 Performance Manager を再起動します。

Performance Manager ユーザーインターフェイスの**自動更新**チェックボックスを選択すると、グラフが再作成され、最新のパフォーマンスデータが表示されます。このチェックボックスを表示するには、グラフの最新の記録セットを検索します。

## Java 仮想マシン メモリ の設定

Java 仮想マシン (JVM) のメモリ不足により発生するメモリ例外を避けるため、Performance Manager に **JVM\_MIN\_MEMORY** パラメータを使用して、要求を受け付けないように設定することができます。このパラメータを特定の値に設定すると、利用可能なメモリが指定の値を下回った場合、「Performance Manager サーバーのメモリが不足しているため、この要求は処理できません」というエラーメッセージが表示され、Performance Manager は要求を受け付けなくなります。要求内容が XML グラフの作成の場合、Performance Manager には XML ファイルとともに「メモリ不足エラー」メッセージが表示されます。このパラメータは、デフォルト設定されていないため、OVPMconfig.ini ファイルで値を指定してください。

**JVM\_MIN\_MEMORY** を指定するには、次の手順に従います。

- 1 OVPMconfig.ini ファイル (<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内) を開きます。
- 2 **JVM\_MIN\_MEMORY** パラメータと値 (たとえば **5**) を入力します。ここで入力する値の単位は **MB** (メガバイト) です。メモリの値を **5 MB** に設定しており、Java ヒープサイズが **5 MB** 以下の場合、Java ヒープサイズの使用可能メモリが **JVM\_MIN\_MEMORY** パラメータで指定した値より大きくなるまで、Performance Manager は要求を受け付けません。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 Performance Manager サーバーを再起動します。



最大 JVM ヒープサイズのデフォルト値は **512 MB** です。これより高い負荷が予測される場合、ヒープサイズをこれより高い値に設定してください。





## 5 他の HP Software 製品の統合

**Performance Manager** は、それ自体でシステム パフォーマンスのデータを収集するものではなく、他のデータソースから収集したデータを、グラフまたは表形式で表示するものです。**Performance Manager** で、さまざまなソースから収集したデータを表示するには、**Performance Manager** がデータソースを検出できるように設定する必要があります。**HP Performance Manager** に統合するすべての製品リストは、リソース ノートを参照してください。

**Performance Manager** は、下記のデータソースおよびデータベースから、データを収録し表示することができます。

### HP Performance Agent

**Performance Agent** は、システムのパフォーマンス情報を提供します。システムの健全性の情報のほか、特定の期間のシステムの動作状況モニタリングに必要な情報を効果的に記録し、さまざまな精度レベルで提供します。

**Performance Agent** は、システムのパフォーマンス データを収集し、設定されたデータ間隔で記録します。これを利用して、分析が可能になります。また、**Performance Agent** は、収集したデータを分析し、**HP Operations Manager** など他のツールに、応急措置の通知を送信します。

### HP Operations Agent、EPC

**HP Operations Manager** は、モニタリングするシステムに **HP Operations Agent** を使用します。**HP Operations Agent** には、システムの全体的な健全性およびパフォーマンスについての情報を記録する **Embedded Performance Component (EPC)** が含まれます。**Performance Manager** などの製品に、**EPC** に記録されたデータを取得し、表示することができます。ここで記録されたデータが評価され、ボトルネック、またはオペレータによる対応が必要な状況を識別した上で、**Operations Manager** コンソールによる対応を受けます。

### HP Reporter

**Reporter** は、**Performance Agent** および **Operations Agent** などを含む、さまざまなパフォーマンス製品からのデータを統合したデータベースから構成されています。**Reporter** は、エージェントが設定されているシステムを検出し、これらを **Reporter** 管理者が設定したルールに従ってグループ化します。**Performance Manager** に **Reporter** の統合が設定されている場合、上記のシステムおよびグループは **Performance Manager** にインポートされます。詳細については、ページ 41 の **HP Reporter の統合** を参照してください。



**Performance Manager** は、**Reporter** を実行中のシステム 1 つに限定した統合をサポートします。ただし、**PA** または **Operations Agent** 実行中のシステムは複数へのアクセスをサポートします。これらのシステム名は、**Reporter** から取得するか、または **Performance Manager** インターフェイスの管理メニューを使用しローカル入力するか、またはファイルからロードすることができます。詳細については、ページ 45 の **ノードの管理** を参照してください。

## HP Interconnect の統合

Performance Manager に HP Interconnect を統合することができます。統合にあたり、HP Interconnect から Performance Manager に XML 形式でのデータ取得を求める URL 要求が送信されます。

HP Interconnect の複数のアプリケーションおよびユーティリティ プラグレットにより、Operations Manager for UNIX などのさまざまな HP Software 製品との統合が可能となります。HP Interconnect および他の HP Software 製品との統合に用いられるプラグレットについての詳細は、*HP Interconnect ユーザー ガイド*を参照してください。

## Performance Agent、EPC、Reporter、および SPI からのデータ収集

Embedded Performance Component は、Operations Manager がモニタリングしているシステムのデータを記録します。さまざまな Smart Plug-Ins (SPIs) が、データベースや、メール サーバーなどのアプリケーションをモニタリングします。SPI 設備は、アプリケーションデータを収録するためにすべてのシステムで使用されます。これらの SPI では、データの記録および管理に、EPC または Performance Agent を使用します。

Reporter は、EPC および Performance Agent により収集されたデータの要約を集中管理するためのデータ倉庫として機能します。Reporter はネットワーク内のさまざまなシステムにインストールされているエージェントを検出し、毎晩、データを収集および集計した上で、中央データベースに保存します。それから、該当するグループのレポートが生成され、システムのデータにさまざまなランク付けが行われます。Reporter は、毎晩、新規レポートを生成し、管理レベルでの企業内のシステム パフォーマンス概要を示します。

データが Reporter から表示される場合、Performance Manager は Reporter の中央データベースからデータを取得します。このデータは、単一のシステムまたは複数のシステムから、同時に取得することが可能です。データの精度は、Reporter がデータ収集時に行った要約により決定されます。データは直接 Reporter が検出したシステムにより取得されるわけではないため、Reporter のデータソースは、データベースに収集および保管されたデータのみを表示します。これは通常、前日の深夜までのデータとなります。そのため、Reporter のデータはリアルタイムとはみなされません。ただし、Reporter データベースからデータを表示することで、ピーク使用時にパフォーマンス データを取得するような要求を生産システムが受けることはありません。Performance Manager に Reporter の統合を設定するための詳細は、ページ 41 の [HP Reporter の統合](#)を参照してください。

あるデータソース (たとえば Performance Agent) から収集したデータを表示するグラフを作成する場合、Performance Manager は、Performance Agent を実行中のシステムに接続し、データを直接 Performance Agent ログ ファイルから取得します。このデータはリアルタイムに近く、数分前のデータが得られます。ただし、Performance Manager はデータソースから取得したデータを保管しないため、グラフ作成後、このデータは破棄されます。同じグラフを再び作成する際には、Performance Manager がシステムに再接続し、データソースからデータを取得します。

## 通信プロトコル

EPC または **Performance Agent** あるいはその両方 (これらの収集元が同じシステムで稼働中の場合) に記録されたデータを使用して、グラフをデザインまたは作成できます。エージェント稼働中のシステムに接続するには、**Performance Manager** は、ご希望のシステム名あるいは IP アドレスを使用します。

**Performance Manager** は、**Performance Agent** の通信プロトコルとして **HTTP(s)** または **RPC** を、また **EPC** の通信プロトコルとして **HTTP(s)** を使用します。

グラフのデザインまたは作成中、**Performance Manager** により、**Performance Agent** または **Operations Agent** に設定された通信プロトコルを自動検出し、**DEFAULT\_DATACOMM** (たとえば **HTTP**) に指定した通信プロトコルを通じて、データソースへの接続を試みます。デフォルト通信プロトコルにより、正常な接続が得られない場合、他の (この場合、**RPC**) プロトコルによるソースへの接続を試みます。

ユーザーが **Performance Manager** ユーザー インターフェイスのシステム情報アイコンをクリックし、特定のノードについての情報を取得しようとする場合、**Performance Manager** は、**Performance Agent** で稼働中のシステムに **RPC** 通信プロトコルによる接続を試みます。**RPC** プロトコルを通じて、正常な接続が確立できない場合、**HTTP** プロトコルを通じて、データソース (**Performance Agent** および **EPC**) を実行中のシステムへの接続を試みます。**Reporter** がお使いのシステムに設定されている場合、ノードが **Reporter** データベース内で取得可能かどうかを確認します。**Performance Manager** によりノード情報が取得されると、ノードのレポートが表示されます。通常、このレポートには、次の内容が含まれます。

- ノード上で実行中のデータソース。
- **Performance Manager** により、システムへの接続に使用されるデータ通信プロトコル。
- そのシステムで実行中のデータソースが検出された通信プロトコル。
- システム上、使用可能なディスク数および CPU 数。
- システムにインストールされているオペレーティング システムのバージョン。
- 主要なメトリックおよび取得可能なメトリック クラスのリスト。

### デフォルトのデータ通信プロトコルの変更

**Performance Manager** のデフォルトでは、**EPC** または **Performance Agent** で実行中のシステムとの通信に **HTTP(S)** プロトコルを使用します。

デフォルト データ通信プロトコルを変更するには、次のステップに従ってください。

- 1 **OVPMconfig.ini** ファイル (<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内) を開きます。
- 2 パラメータ **DEFAULT\_DATACOMM** を、必要に応じて修正します。たとえば、デフォルトのデータ通信プロトコルを **RPC** に変更するには、パラメータを **DEFAULT\_DATACOMM = RPC** と指定します。



デフォルトのプロトコルは **HTTP(S)** であるため、**RPC** プロトコルによるエージェントとの初回通信時は、比較的時間がかかります。同様に、デフォルトのプロトコルが **RPC** に設定されている場合、エージェントへの **HTTP(S)** プロトコルによる初回接続時は、比較的時間がかかります。そのため、お使いの環境でエージェントに使用されている最も一般的なプロトコルを **DEFAULT\_DATACOMM** に設定することをお勧めします。

- 3 **Performance Manager** を再起動します。

# Operations Agent および Performance Agent とのセキュアな通信の設定

セキュアな通信により、ネットワーク間に転送したデータへの不正なアクセスを防ぐとともに、エージェントへのアクセスをインストールごとに個別に有効にした **Performance Manager** に制限できます。ただし、セキュアな通信は、データ移動時の暗号化と復号化の作業により、通常の通信よりも速度が遅くなります。

## Operations Agent とのセキュアな通信

HP Operations Agent バージョン 8.00 以降のバージョンでは、**Performance Manager** とのセキュアな通信を設定するオプションが提供されています。**Operations Agent** とのセキュアな通信を設定するには、以下の手順に従います。

- 1 セキュアなデータ通信のインストールと設定については、**Operations Manager** の指示に従ってください。
- 2 セキュアな通信を使用するシステムでは、**SSL\_SECURITY** を **ALL** に設定変更します。
- 3 システムにログオンし、次のコマンドを実行します。

```
cd <Install_Dir>/bin  
  
ovconfchg -namespace coda -set SSL_SECURITY ALL
```

**Performance Manager** は、セキュアな通信用に設定されていないエージェント、またはセキュアな通信をサポートしていないエージェントに対して、通常の通信 (**HTTP**) を使用しています。

## Performance Agent とのセキュアな通信

**Operations Manager 8.00** 環境で **HTTPS** 通信が設定されている場合、**Performance Agent** と **Performance Manager** との間のセキュアな通信を設定するために、以下の変更を行ってください。

**Performance Agent system** システムで、**coda** の **SSL\_SECURITY** を **REMOTE** に設定します。以下のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ns coda -set SSL_SECURITY REMOTE
```

**Performance Manager** は、セキュアな通信が設定されたあらゆるエージェントに対し、自動的にセキュアな通信 (**HTTPS**) を使用します。

## 証明書のインストール

**Performance Manager** では、セキュア ソケット レイヤー (**SSL**) プロトコルを使用した管理環境のノードと通信するには、信頼できる権限者により発行されたルート証明書をインストールする必要があります。

これらの証明書をインストールする手順は、**Performance Manager** がインストールされている環境により異なります。以下のセクションでは、エージェントとのセキュアな通信を設定する手順を、シナリオごとに説明しています。

## スタンドアロン設定の Performance Manager

### Performance Manager のみがインストールされているシステムに証明書をインストールする

Performance Manager のみがインストールされており、エージェント (Operations Agent または Performance Agent) がインストールされていないシステムに、証明書をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 次のコマンドをコマンドプロンプトで実行して、Performance Manager のシステムに証明書サーバーを設定します。

```
ovconfchg -ns sec.cm.client -set CERTIFICATE_SERVER <server_name>
```

この場合、<server\_name> は、証明書を発行する管理サーバー名を指します。

- 2 次のコマンドを実行して、証明書要求を管理サーバーに送信します。

```
ovcert -certreq
```

- 3 管理サーバーにログオンし、次のコマンドを実行し、保留要求を確認します。

```
ovcm -listpending -l
```

保留要求のリストが、以下のフォーマットで表示されます。

```
RequestID: 654ed592-e23c-7528-1d96-daf5d58f48e9
```

```
Context:
```

```
CN: fb4e0a42-cc82-7528-1db0-b70ce0890a80
```

```
Nodename: MySystem
```

```
IPAddress: 15.154.79.66
```

```
PeerAddress: 15.154.79.66
```

```
Platform: Windows 5.2, CPU: IA32
```

```
InstallType: Manual
```

```
TimeReceived: 4/6/2007 10:43:44 PM India Standard Time
```

- 4 要求 ID を控えた上で、次のコマンドを実行し、証明書要求を承諾します。

```
ovcm -grant <RequestID>
```

この場合、<RequestID> は `ovcm -listpending -l` コマンド実行後に、保留要求のリストに表示された ID を指します (たとえば `654ed592-e23c-7528-1d96-daf5d58f48e9`)。

Performance Manager サーバーに証明書が配備されました。

- 5 Performance Manager サーバーにログオンし、証明書をサーバー リソース グループにエクスポートします。証明書をエクスポートする方法は、次の手順に従ってください。

- a 証明書をファイル形式にエクスポートするには、以下のコマンドを実行します。

```
ovcert -exportcert -file <file> -pass <passphrase>
```

たとえば、`ovcert -exportcert -file C:\temp\cert -pass 123`

- b 信頼のにおける証明書をファイル形式にエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

```
ovcert -exporttrusted -file <file1>
```

たとえば、`ovcert -exporttrusted -file C:\temp\cert1`

- 6 証明書をサーバー リソース グループにインポートするには、次のコマンドを実行します。

```
ovcert -importcert -file <file> -ovrg server -pass <passphrase>
```

たとえば、**ovcert -importcert -file c:\temp\cert -ovrg server -pass 123**



これらの証明書をインポートするには、証明書のエクスポートに使用したのと同じパスワードを使用します。

- 7 信頼のおける証明書をサーバー リソース グループにインポートするには、次のコマンドを実行します。

```
ovcert -importtrusted -file <file1> -ovrg server
```

たとえば、**ovcert -importtrusted -file C:\temp\cert1 -ovrg server**

### Operations Agent と Performance Manager がインストールされているシステムへの、証明書のインストール

Operations Agent ( 証明書付きの HTTPS エージェント ) が Performance Manager 以前にインストールされているシステムに証明書をインストールするには、次の手順に従ってください。

- 1 Performance Manager サーバーにログオンします。
- 2 証明書をリソース グループ 'server' にエクスポートします。
  - a 証明書をファイル形式にエクスポートするには、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
ovcert -exportcert -file <file> -pass <passphrase>
```

たとえば、**ovcert -exportcert -file C:\temp\cert -pass 123**

- b 信頼のおける証明書をファイル形式にエクスポートするには、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
ovcert -exporttrusted -file <file1>
```

たとえば、**ovcert -exporttrusted -file C:\temp\trusted**

- 3 証明書をリソース グループ 'server' にインポートします。

```
ovcert -importcert -file <file> -ovrg server -pass <passphrase>
```

たとえば、**ovcert -importcert -file c:\temp\cert -ovrg server -pass 123**

- 4 信頼のおける証明書をサーバー リソース グループにインポートします。

```
ovcert -importtrusted -file <file1> -ovrg server
```

たとえば、**ovcert -importtrusted -file C:\temp\trusted -ovrg server**



これらの証明書をインポートするには、証明書のエクスポートに使用したのと同じパスワードを使用します。



## OVPM 5.00 または 6.00 から Performance Manager 8.00 にアップグレードを行ったシステムへの、証明書のインストール

OVPM 5.00 または 6.00 から Performance Manager 8.00 にアップグレードを行い、既に HTTPS エージェントが証明書とともにインストールされている場合、**Operations Agent** と **Performance Manager** がインストールされているシステムへの、証明書のインストール セクションの手順に従ってください。

### Operations Manager がインストールされているシステムに証明書をインストールする

Operations Manager for Windows または Operations Manager for UNIX がインストールされているシステムに **Performance Manager** をインストールする場合、**Performance Manager** は、HTTPS による管理サーバーにより管理されるエージェントと、自動的に通信を行うことができます。

## Performance Manager のクラスタ設定

### Operations Manager がインストールされていないクラスタ設定への証明書のインストール

Operations Manager for Windows または Operations Manager for UNIX がインストールされていないクラスタ設定上に、**Performance Manager** をインストールする場合、次の手順に従ってください。

- 1 Performance Manager システムにログオンします。
- 2 次のコマンドを、コマンドプロンプトで実行し、コア ID を生成します。

```
ovcoreid -create -force -ovrg server
```

- 3 サーバー リソース グループのコア ID を取得します。

```
ovcoreid -show -ovrg server
```

- 4 管理サーバーにログオンし、次のコマンドを実行し、証明書を発行します。

```
ovcm -issue -name <nodename> -file <file> -coreid <coreid> -pass <passphrase>
```

この場合、<nodename> は、Performance Manager がインストールされているシステムを指します。

**coreid** は、PM システム上での '**ovcoreid -show -ovrg server**' コマンドの出力を指します。

たとえば、**ovcm -issue -name MySystem -file C:\temp\cert -coreid fb4e0a42-cc82-7528-1db0-b70ce0890a80 -pass 123**

- 5 次のコマンドを実行し、信頼のおける証明書をエクスポートします。

```
ovcert -exporttrusted -file <file1>
```

たとえば、**ovcert -exporttrusted -file C:\temp\trusted**

- 6 管理サーバーから Performance Manager 実行中のシステムへ、<file> および <file1> を転送します。

- 7 Performance Manager システムで、次のコマンドを実行し、証明書を「サーバー」リソースグループにインポートします。

```
ovcert -importcert -file <file> -ovrg server -pass <passphrase>
```

たとえば、`ovcert -importcert -file c:\temp\cert -ovrg server -pass 123`

```
ovcert -importtrusted -file <file1> -ovrg server
```

たとえば、`ovcert -importtrusted -file C:\temp\trusted -ovrg server`



これらの証明書をインポートするには、証明書のエクスポートに使用したのと同じパスワードを使用します。

### Operations Manager がインストールされているクラスタ設定に証明書をインストールする

Operations Manager for Windows または Operations Manager for UNIX がインストールされているクラスタ設定に Performance Manager をインストールする場合、Performance Manager は、HTTPS による管理サーバーにより管理されるエージェントと自動的に通信を行うことができます。

### OVPМ 5.00 または 6.00 から Performance Manager 8.00 にアップグレードを行ったクラスタ設定への、証明書のインストール

OVPМ 5.00 または 6.00 から Performance Manager 8.00 のクラスタ設定にアップグレードを行い、Operations agent、Windows の Operations Manager または UNIX の Operations Manager がインストールされていない場合、証明書のインストールは ページ 39 の Operations Manager がインストールされていないクラスタ設定への証明書のインストール の手順に従ってください。

Operations Manager for Windows または Operations Manager for UNIX がインストールされているクラスタ設定で、OVPМ 5.00 または 6.00 から Performance Manager 8.00 へのアップグレードを行う場合、Performance Manager は、HTTPS プロトコルによる管理サーバーにより管理されるエージェントと、自動的に通信を行うことができます。



## HP Reporter の統合

Reporter は、Performance Agent および EPC をインストールしたシステムを検出します。さらに、Reporter はそれらのシステムをオペレーティング システム別にグループ化します。ただし、Reporter 管理者は、このグループを変更したり、独自のグループを追加することができます。Reporter で定義されたシステムおよびグループは、Performance Manager に正常に統合されると、自動的に使用できるようになります。

Performance Manager を Reporter と統合するには、Performance Manager が Reporter で使用される Reporter データベースに接続できるようにする必要があります。Performance Manager からアクセスするには、Reporter データベースは、Oracle または SQL Server である必要があります。



Performance Manager と Reporter の統合が正常に行われるには、Reporter が混合認証モードでインストールされていることを確認してください。Reporter が Windows 認証モードでインストールされている場合、レジストリ キーを混合モードに設定する必要があります。また、パスワード「openview」を用いて、ユーザー プロファイル「openview」を作成する必要があります。ユーザーを作成する方法については、Reporter マニュアルを参照してください。

Reporter が Windows 認証モードおよびデータベースとして SQL 2005 をインストールされている場合、次の手順に従い、レジストリ キーを混合モードに設定します。

- 1 <http://www.microsoft.com> にアクセスします。
- 2 Windows インストーラを使用して、SQL Server 2000 Desktop Engine をインストール中にデフォルトのログイン認証モードを SQL Server 認証に変更する方法を検索します。
- 3 上記の記事の、レジストリ キーを混合モードに設定する手順に従います。

**PORT** エントリ (OVPMConfig.ini ファイル内) は、デフォルトのポート番号を指しており、これは、Reporter との接続中に Performance Manager により使用されません。

このエントリを、ダイナミック ポート番号に変更するには、次の手順に従います。

- 1 **開始 -> プログラム -> Microsoft SQLServer 2005 -> 設定ツール -> SQL Server 設定マネージャ** をクリックします。SQL Server 設定マネージャ画面が表示されます。
- 2 左ペインで、SQL Server 2005 ネットワーク設定を拡張し、<インスタンス名>の**プロトコル**をクリックします。インスタンス名の検索についての詳細は、HP Reporter インストールおよび特殊な設定ガイドを参照してください。
- 3 右ペインで、**TCP/IP** を右クリックし、コンテキスト メニューから**有効にする**オプションを選択します。
- 4 <インスタンス名>を再起動します。
- 5 SQL Server 設定マネージャ画面の右ペインで、**TCP/IP** を右クリックし、コンテキストメニューから**プロパティ**を選択します。TCP/IP プロパティ画面が表示されます。
- 6 **IP アドレス**タブをクリックします。TCP ダイナミック ポート番号が IPALL 下に表示されます。このポート番号を、OVPMConfig.ini ファイルの **REPORTER** セクション下の **PORT** で指定します。
- 7 ファイルを保存します。
- 8 Performance Manager を再起動します。

Performance Manager が Reporter と同じ Windows システム上にインストールされている場合、統合が自動的に設定されます。Reporter が Performance Manager の後にインストールされたか、別のシステムにインストールされている場合、OVPMconfig.ini を修正し、Reporter データベースの検出を行う必要があります。

OVPMconfig.ini を修正し、Reporter データベースの検出を行うには、次の手順に従います。

- 1 OVPMconfig.ini ファイル (<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内) を開きます。
- 2 **[REPORTER]** セクションを更新します。サンプル行からコメント記号「;」を削除し、各自のインストール内容に応じて、残りの情報を置き換えます。

例：

Reporter 製品がインストールされている場合、

```
[REPORTER]
SYSTEM = mysys
DSN = reporter
TYPE = sqlserver
USER = openview
PASSWORD = openview
PORT = 1521
MINCONN = 5
MAXCONN = 10
CONNEXPIRE = 60
SLEEPTIME = 2000
MAXRETRY = 30
```

この場合、

<b>SYSTEM</b>	データベースが配置されているシステムの名前を指します。
<b>DSN</b>	データソース名、すなわち Reporter を指します。
<b>TYPE</b>	データベースの種類を指します (たとえば <b>SQL server</b> または <b>Oracle</b> )。
<b>USER</b>	データベース アクセスのためのユーザー名を指します。
<b>PASSWORD</b>	上記ユーザーのパスワードを指します。
<b>Port</b>	データベース サーバーがリスンするポート番号を指します。Oracle データベースをホストするシステムの場合は通常 <b>1521</b> です。Reporter が <b>SQL Server</b> データベースを使用している場合は、TCP ダイナミックポート番号を調べ、 <b>PORT</b> の値を変更します。  SQL 2000 および SQL 2005 のポート設定についての詳細は、 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a> にアクセスしてください。</li> <li>2 <b>SQL server 2005</b> または <b>2000</b> の名付けたインスタンスへの接続方法、および静的または動的ポートのどちらかを使用するための <b>SQL</b> サーバーのインスタンス設定方法を検索します。</li> <li>3 検索結果の指示に従ってください。</li> </ol>
<b>MINCONN</b>	保持するデータベース接続の最小数を指します。

<b>MAXCONN</b>	保持するデータベース接続の最大数を指します。
<b>CONNEXPIRE</b>	接続が終了されるまでの時間、または自動的に終了して再接続されるまでに接続を確認することができる最大時間（秒単位）を指します。 値 0（ゼロ）は、接続確認の期限がないことを意味します。デフォルトは 60 秒です。
<b>SLEEPTIME</b>	スレッドが未使用の接続を取得できない場合の再試行間隔（スリープ時間、ミリ秒単位）を指します。デフォルト値は 2000 ミリ秒です。
<b>MAXRETRY</b>	スレッドが未使用のデータベース接続の取得を試行する最大回数を指します。この回数を越えると、スレッドは接続の取得を中止します。 <b>MAXRETRY</b> のデフォルト値は 30 です。

3 Performance Manager を再起動します。

## ログ ファイルのプロキシ化

エージェント ログ ファイルを別のシステムに転送し、そのシステムのエージェント下にマウントした場合、そのログ ファイルは 2 番目のシステムによって「プロキシされている」といいます。プロキシ化されたログ ファイルは、**HP Reporter** がプロキシのホスト システムを検出すると、自動的に検出および設定されます。

プロキシ化されたログ ファイルを、**Performance Agent** システムに手動で追加するには、**[system-name]DATASOURCE\_NAME** のようにしてシステムに追加します。

この場合、**DATASOURCE\_NAME** は `ovcodutil -obj` 出力、または `perflbd.rc` ファイルのエントリで指定したデータソース名を指します。

この場合、

- **system-name** は、ログ ファイルをホストしているシステム名を指します。
- **datasource** は、`perflbd.rc` ファイル内のデータソース名です。

たとえば、システムのホスト名が `system.xyz.com` で、`perflbd.rc` のデータソースが `abc` の場合、このプロキシ化されたログ ファイルを追加する構文は、次のようになります。

**[system.xyz.com] abc**

プロキシ化されたログ ファイルが正常に追加された後、「システム情報」アイコンをクリックし、ホスト システムの情報を表示して、ログ ファイルが使用可能かどうかを確認してください。



## 6 ノードの管理

Performance Manager ユーザー インターフェイスの**管理**メニューを使用し、ノードおよびノード グループの追加、ノードの顧客へのアタッチやデタッチ、ノードの削除を行うことができます。ノードの設定についての詳細は、*HP Performance Manager* オンライン ヘルプおよび *HP Performance Manager* チュートリアルを参照してください。Performance Manager ユーザー インターフェイスのヘルプ メニューから、ヘルプ ページおよびチュートリアルへのリンクを使用することができます。

### デフォルト ノード グループの管理

Performance Manager のノード グループにノードを追加する際、常にデフォルトのノード グループ "All" にノードを自動的に追加するよう設定することができます。

設定方法は次の手順に従ってください。

- 1 OVPMconfig.ini ファイルを開きます。設定ファイルは、<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリに入っています。
- 2 **MANAGE\_DEFAULT\_NODEGROUP** を **True** に設定します。このプロパティのデフォルト値は、**False** に設定されています。
- 3 ファイルを保存し、Performance Manager サーバーを再起動します。



**MANAGE\_DEFAULT\_NODEGROUP** を **True** に設定すると、他のノード グループにノードを追加または削除したときに、常に **All** ノード グループが自動的に管理されます。ただし、その場合パフォーマンスが低下するため、**False** に設定することをお勧めします。

### HP Operations Manager からノード リストをインポートする

Operations Manager for Windows 8.00 およびそれ以降のバージョンから Performance Manager にノード グループをインポートするには、Operations Manager for Windows および Performance Manager の両方が、同じシステムにインストールされていることが必要となります。お使いのシステムに Operations Manager for Windows がインストールされている場合、Performance Manager のインストール中、自動的にノード グループのインポート設定がなされます。すなわち、**IMPORT\_OVOW\_NODELIST** パラメータ (OVPMconfig.ini ファイル内) が自動的に **TRUE** 設定となります。同じシステムに Operations Manager for Windows がインストールされていない場合、**IMPORT\_OVOW\_NODELIST** のデフォルト設定 **FALSE** となります。

ノードリストを Operations Manager for Windows からインポートするには、次の手順に従います。

- 1 OVPMconfig.ini ファイルを開きます。設定ファイルは、<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリに入っています。
- 2 [OVOW] セクションで、**IMPORT\_OVOW\_NODELIST** が **TRUE** に設定されていることを確認してください。
- 3 ファイルを保存します。

▶ **IMPORT\_OVOW\_NODELIST** パラメータが **False** 設定になっていると、Operations Manager からのノードリストのインポートが無効になります。同じシステムに Operations Manager for Windows がインストールされていない場合、**IMPORT\_OVOW\_NODELIST** が **FALSE** に設定されていることを確認してください。

同じマシンに Operations Manager for Windows および Performance Manager がインストールされている場合、Operations Manager からのノードリストのインポートを有効にし、Performance Manager が自身のノードリストを使用しないよう設定することができます。その場合、**IMPORT\_OVPM\_NODELIST** パラメータ (OVPMconfig.ini ファイル内) を修正します。たとえば、**IMPORT\_OVOW\_NODELIST** を **TRUE** に、**IMPORT\_OVPM\_NODELIST** を **FALSE** に設定した場合、Operations Manager for Windows からのノードリストのインポートが有効になり、Performance Manager 自身のノードリストは使用できなくなります。この場合、Performance Manager インターフェイスの**管理**メニューの**ノードを管理**オプションは使用できなくなります。

既に Operations Manager for Windows がインストールされているシステムに Performance Manager をインストールする場合、**IMPORT\_OVPM\_NODELIST** パラメータ (OVPMconfig.ini ファイル内) は、自動的に **False** に設定されます。

▶ Performance Manager ユーザーは、Operations Manager および Reporter 実行中に、**HPOM から再読み込み**、および **Reporter から再読み込み** オプションを使用してそれぞれのノードグループを再読み込みすることができます。これらのオプションは、Performance Manager ユーザー インターフェイスの**ノード**メニューから使用することができます。

## ノードのバッチ アップロード

ノードをバッチで Performance Manager にアップロードするには、pmsystems.txt ファイル内のノードグループを指定してください。pmsystems.txt ファイルを編集する場合は、次の点に注意してください。

- このファイル内では、空白行またはシャープ記号 (#) で始まる行は、コメントとみなされます。
- **GROUP:** グループ名を指定します。**GROUP** 下に追加されたノードは、指定した名前グループ化されます。**GROUP** エントリは、常に **END\_GROUP** パラメータで終了させてください。次の **GROUP:** 行で新しいグループが開始します。
- Performance Manager では、コメントが入っていないか、シャープ記号 (#) がない行を、システム名とみなします。システム名は、ネットワークアドレスに有効なものである必要があります。有効なシステム名を入力するようにしてください。名前を IP アドレスにすると、グラフの作成またはデザイン中にノードを選択する際、ユーザーの混乱を招く場合があるため、ノードの名前を使用することをお勧めします。

- Performance Agent を実行中の別のノードに、プロキシ化されたログ ファイルを指定するには、元のシステム名がホストするシステム名の前に来るようにしてください。構文 `[hostname]actualsystem` は、実際のシステム ログ ファイルが、指定したホスト名のシステムの Performance Agent にマウントされていることを示します。プロキシ化したログについての詳細は、ページ 43 の [ログ ファイルのプロキシ化](#) を参照してください。
- システムをご希望のグループ分類の後にリストすることで、システムを 1 つ以上のグループに追加することができます。

ノードを一括してアップロードするには、次の手順に従ってください。

- 1 サンプル ファイル `pmsystems.txt` (`<install_dir>/newconfig/OVPM` 内) を、`<PM_data_dir>/conf/perf` ディレクトリにコピーします。
- 2 `pmsystems.txt` ファイル (`<PM_data_dir>/conf/perf` 内) を開き、このファイルを編集し、ノード グループを追加します。次の例に従います。

```
GROUP: MyGroup1
    System1.xyz.com
    System2.xyz.com
END_GROUP
```

この場合、**GROUP** は、ノード グループを指します。

▶ グループまたはノード グループを追加する場合、ノードを **GROUP: タグ** と **END\_GROUP** タグの間に入力してください。

- 3 ファイルを、`<PM_data_dir>/conf/perf` ディレクトリに保存します。
- 4 Performance Manager が実行中の場合、停止します。
- 5 `pmsystems.txt` ファイルで指定したシステムをアップロードするには：
  - a `ovpm uploadsystems` コマンドを実行します。
  - b Performance Manager を開始します。

▶ アップロードが正常に終了すると、`pmsystems.txt` ファイル名が `systems_bkp.txt` に変更されます。アップロード時に例外が発生しない限り、以前の `OVPMSystems.xml` が置き換えられます。`OVPMSystems.xml` ファイルが他の操作中に変更されている場合、Performance Manager により、自動的にデフォルトの `OVPMSystems.xml` ファイルに置き換えられます。

- 6 `ovpm start` コマンドを実行し、Performance Manager サーバーを起動します。

## ノードの一時的な追加

ホームページおよびデザイン ウィザードのノードの選択画面から、ノードを追加オプションを使用して、一時的にノードを追加できます。画面に追加されたノードは、Web ページを更新すると表示されなくなります。

これで、**DISABLE\_TEMP\_NODE\_ADDITION** パラメータを設定することにより、ノードを追加オプションを有効または無効にできます。デフォルトでは、このパラメータは `OVPMconfig.ini` ファイル内になく、ノードを追加オプションが有効で、すべてのユーザーが利用できます。詳細については、付録 A、[OVPMConfig.ini](#) パラメータを参照してください。

ただし、管理者権限を持つユーザーは、管理メニューのノードを管理オプションを使用することで、Performance Manager サーバーのノード グループに、恒久的にノードを追加することができます。詳細については、*HP Performance Manager* チュートリアルまたはオンライン ヘルプを参照してください。





## 7 フラット ファイルの管理

**Performance Manager** は、データ ソースとしてのフラット ファイルの使用をサポートします。フラット ファイルは、基本的には行あたり 1 つのレコードの **ASCII** テキスト ファイルです。行内のすべてのフィールドは、タブまたはコンマで区切られます。ファイル上部のヘッダー ラインにより、日付、時刻およびメトリック名を含むファイルのコンテンツが定義されます。

フラット ファイル形式は、1 つのファイル内の複数のメトリックをサポートします。すべてのファイル データソースに対して、**Performance Manager** にあるクラスは 1 つだけです。フラット ファイルのクラス名は、「FILEDATA」です。各インスタンスを区別するために使用できるフィールドを単に含むだけで、複数のインスタンスをサポートすることができます。

### ファイル名と場所

**Performance Manager** によってサポートされるフラット ファイル名は、組み込み空白を含んではならず、ファイル拡張子 `.bus` で終了してはいけません。例：MyOwnData.bus。

フラット ファイルは、**Performance Manager** サーバーに保存する必要があります。**Performance Manager** 管理者がフラット ファイルをアップロードすることができ、ユーザー インターフェイスからはアップロードまたは管理できません。データ ソースとしてフラット ファイルを使用して、グラフをデザインまたは作成しているときに、デフォルトでは **Performance Manager** がログオン名に基づき、以下のディレクトリでフラット ファイルを探します。

<code>&lt;PM_data_dir&gt;/conf/perf</code>	この場所で使用できるフラット ファイルを、名前が記載されていないユーザー証明書を持つ顧客およびこの顧客にアタッチしているすべてのユーザーが、使用できます。
<code>&lt;PM_data_dir&gt;/conf/perf/ VPI_CUST_&lt;customername&gt;</code>	この場所で使用できるフラット ファイルを、特定の顧客およびこの顧客にアタッチしているすべてのユーザーが、使用できます。

例："user1"、"user2"、および "user3" が "customer1" に付随している場合、すべてのフラット ファイルは `<PM_data_dir>/conf/perf/VPI_CUST_customer1` の場所で利用可能であり、"customer1" および "customer1" にアタッチしているすべてのユーザーがアクセスできます。

### サンプル フラット ファイル

**HP Performance Manager** をインストールする際、デフォルトでは、次記のサンプル フラット ファイルを `<Install_dir>\newconfig\OVPM` の場所で使用できます。

- HPCASE.bus
- CaseBus1.bus

これらのサンプル ファイルを使用するためには、ユーザー資格に基づく適切な場所に、サンプル ファイルをコピーする必要があります。

## フラット ファイルの形式

Performance Manager によってサポートされるフラット ファイルの形式には、以下が含まれます。

- **ヘッダー ライン** - ファイルの最初の行がヘッダー ラインです。この行はデータ行のフィールドを特定します。
- **データ行** - データは、1 つ以上の数字フィールドおよびテキスト フィールドで構成されます。ファイルの各行は、1 つのデータ サンプルを表します。ただし、ヘッダー ラインである最初の行を除きます。

フィールドの最初と最後の空白スペースは、すべて無視されます。空白行およびポンド記号 # で始まる行は無視されます。

### ヘッダー ライン

ファイルの最初の行がヘッダー ラインです。ヘッダー ラインはファイルのフィールドを特定します。ヘッダー ラインの各フィールドは、日付と時刻の修飾子およびメトリック名を含みます。これらのフィールドを、区切り文字 (タブまたはコンマ) で区切ります。

二重引用符で囲まれたメトリック名は、このフィールドがテキスト データを含むことを示します。引用符で囲まれていないメトリック名は、そのフィールドが数字であることを示します。メトリック名に、区切り文字 (タブまたはコンマ) を含めてはいけません。

フラット ファイルの最初のフィールドは、日付と時刻のフィールドでなければなりません。ヘッダー ライン内の日付と時刻の修飾子は、文字 "Y"、"M"、"D" で構成されます。日付フィールドの順番は、形式を示します。例: (YMD = 年、月、日) または (MDY = 月、日、年)。

時刻の修飾子は文字列 "TIME" で構成され、オプションで AM/PM のインジケータが付きます。時刻が 24 時間形式の場合、"TIME" だけが必要です。時刻が 12 時間形式の場合、次に時刻文字列にある "PM" を示すインジケータを入力します。(たとえば、TIMEPM)。TIME は分離した列ではなく、DATE/TIME 列の一部と考えられることに注意してください。

### データ行

- 各フィールドは他のフィールドから、区切り文字 (タブまたはコンマ) によって区切られます。
- 区切り記号を含むテキスト フィールドは、二重引用符で囲む必要があります。
- フィールド内に特殊文字がない場合、二重引用符はオプションです。
- 数値データは、整数または浮動小数点が可能です。PM は、分析のためにデータを浮動小数点に変換します。
- 各行の最初のフィールドはサンプルの日付にし、オプションとして時刻にします。日付は、年、月、日のどの順番でも、数字以外、区切り文字以外の文字で区切って、指定できます (ヘッダー ラインで指定したように)。
- 時刻の形式は、時間、その次が分で、数字以外、区切り文字以外の文字で区切ります。時刻が 12 時間形式の場合、その時に合った AM または PM を指定する必要があります。
- データ行数が 10,000 を超える場合、グラフ作成中の応答が遅くなるかもしれません。

## 8 顧客およびユーザーの設定

**Performance Manager** インターフェイスで使用可能な**管理**メニューは、顧客およびユーザーの設定を行うためのオプションを提供します。以下の目的で、顧客およびユーザーを作成することができます。

- パフォーマンス データへの不当なアクセスを制限します。
- ユーザーが作成したグラフを、当該ユーザーのログオン固有のフォルダに保存します。パスワードにより、顧客のデータを保護し、不当なアクセスを防ぐことができます。
- ユーザー プロファイル権限を定義し、アクセス権限を持つタスクに限り、実行を許可します。たとえば、あるユーザーには、グラフを作成してサーバーに保存する権限を与え、他のユーザーには、グラフの作成または編集を制限することができます。

### 顧客の設定

それぞれの顧客にログオン用パスワードを割り当てて、ある顧客が別の顧客のデータを表示することを禁止することができます。ただし、顧客 ID およびパスワードを空白にしておくと、すべてのデータにアクセスできます。空白になっている顧客にパスワードを割り当てることで、不当なアクセスを防ぐことができます。

**Performance Manager** ユーザー インターフェイスの**管理**メニュー オプションを使用して、顧客の追加または削除、顧客とユーザーおよびノードのアタッチ、顧客プロファイルの表示および編集を行うことができます。顧客の設定についての詳細は、*HP Performance Manager* オンラインヘルプおよび *HP Performance Manager* チュートリアルを参照してください。



空欄の顧客を削除することはできません。別の顧客を削除すると、その顧客にアタッチされている全ユーザーが削除され、その顧客にアタッチされているノードはすべてアタッチされなくなります。

### ユーザーの設定

複数のユーザーを 1 人の顧客にアタッチした場合、その複数のユーザーは、その顧客が作成したグラフ定義にアクセスできません。ユーザーまたは顧客が作成したどのグラフ テンプレートも、そのユーザーまたは顧客に対して一意であり、別のユーザーまたは顧客が表示することはできません。

また、ユーザー ログオンをパスワードで保護し、各ユーザーの権限を定義することができます。

**Performance Manager** において、必要とされるタスクの実行権限を有するユーザー プロファイルは、次のように分類されます。

標準	このプロファイルのユーザーは、すぐに使用できるサンプル グラフを作成することができます。また、新規作成および修正したグラフ定義の編集および保存を行うことができます。
読み取り専用	このプロファイルのユーザーは、すぐに使用できるサンプル グラフの作成に加えて、グラフ定義を編集したり、新規作成したりすることができます。ただし、このユーザーは、 <b>Performance Manager</b> サーバー上に、新しいグラフ定義または修正したグラフ定義を保存する権限はありません。
表示専用	このプロファイルのユーザーは、すぐに使用できるサンプル グラフを作成することはできますが、自身のグラフ定義を作成したり、既存のグラフ定義に修正を加える権限はありません。

管理メニュー オプションを使用して、顧客へのユーザーの追加、ユーザー プロファイルの表示および編集、ユーザーの削除を行うことができます。ユーザーの設定についての詳細は、**HP Performance Manager** オンライン ヘルプおよび **HP Performance Manager** チュートリアルを参照してください。

## 9 URL パラメータからのグラフの作成

Performance Manager では、URL レファレンスを認識することができるあらゆるアプリケーションから、Performance Manager を呼び出し、グラフを作成することができます。

任意のアプリケーションから Performance Manager を呼び出し、グラフを作成するには、次の手順に従います。

- 1 次の URL を使用します。

**http://<systemname>:<port number>/OVPM?**

この場合、

- **<systemname>** は、Performance Manager サーバーが実行されているシステムの名前です。Performance Manager に Web ブラウザからアクセスする場合、この変数を実際のシステム名またはサーバー名、あるいはシステムの IP アドレスに置き換え、ネットワーク名のサーバーが Performance Manager システムに解決できるようにする必要があります。たとえば **system.abc.com**。
- 8081 はデフォルトの HTTP ポート番号です。ポート設定を変更した場合、Performance Manager に割り当てたポートを指定することができます。Performance Manager に設定されているポート番号を確認するには、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。  
**<install\_dir>\bin\ovconfget**
- **OVPM** が使用され、サーバー処理コードが検出されます。OVPM の後の疑問符 (?) は、次の URL 構文が Performance Manager 実行中にサーバー コードを経過するパラメータ文字列であることを示しています。



空欄の顧客にパスワードが割り当てられている場合、パラメータ経過時に Performance Manager のログイン ページが表示され、ログオンするよう指示が出されます。グラフにアクセスするには：

- a 空欄の顧客のパスワードを入力し、ログイン画面の**ログイン**をクリックするか、URL に次のパラメータを入力します。

**CUSTOMER=&PASSWORD=<password>**

この場合、<password> は空欄の顧客に割り当てられたパスワードです。

- b ログオン権限を持っている場合、URL の **CUSTOMER** および **PASSWORD** パラメータに、ユーザー名とパスワードを入力し、グラフにアクセスすることができます。

- 2 **SYSTEMNAME** パラメータを入力し、その値を指定します。たとえば **SYSTEMNAME=SYSTEM.ABC.COM**。
- 3 **GRAPHTEMPLATE** パラメータを入力し、その値を指定します。たとえば **GRAPHTEMPLATE=Agents**。

- 4 **GRAPH** パラメータを入力し、作成したいグラフを指定します。たとえば、**GRAPH="Global History"**。system.abc.com のグローバル履歴グラフが表示されます。

URL 文字列に、以下に一覧表示した区切り文字を、組み合わせて使用する必要があります。

名前 - 値ペア間の区切り文字	名前と値の間の区切り文字
&	=
:	-



- URL 文字列に、以下に一覧表示した区切り文字を、組み合わせて使用する必要があります。
  - ペアとペアの間の区切り文字として "&" を使用する場合、名前と値を接続する区切り文字として "=" を使用します。

例：

```
http://<servername>:8081/OVPM?SYSTEMNAME=SYSTEM.ABC.COM&GRAPHTEMPLATE=Agents&GRAPH="Global History"
```

- ペアとペアの間の区切り文字として "-" を使用する場合、名前と値を接続する区切り文字として ":" を使用します。

例：

```
http://<servername>:8081/OVPM?SYSTEMNAME=SYSTEM.ABC.COM:GRAPHTEMPLATE-Agents:GRAPH-"Global History"
```

- グラフ名に空白スペースがある場合、空白スペースを結合記号に置換してグラフを描きます。たとえば、**graph="Global+History"** のようにします。

URL でグラフを生成するためのキーワードおよびパラメータの詳細は、ページ 57 のキーワードを参照してください。

## 10 バッチによるグラフの実行

**ovpmbatch** スクリプトを実行することで、Performance Manager にアクセスし、グラフを生成することができます。スクリプトを実行するには、**GRAPHTEMPLATE** パラメータ、**SYSTEMNAME** パラメータ、**GRAPH** パラメータを入力します。また、**GRAPHTYPE** などの追加パラメータを指定することもできます。

たとえば、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行すると、指定したグラフが生成されます。

```
ovpmbatch GRAPHTEMPLATE=VPI_GraphsAgents.txt GRAPH="Global History"  
SYSTEMNAME=system.abc.com
```

この場合、

- **GRAPHTEMPLATE=VPI\_GraphsAgents.txt** は、グラフ テンプレート ファイルを指します。**Agents** を **GRAPHTEMPLATE** の値として指定することもできます。
- **GRAPH="Global History"** は、グラフ名を指します。
- **SYSTEMNAME=system.abc.com** は、グラフに表示されるデータを収集するシステムを指します。
- ▶ ● **GRAPHTEMPLATE** および **GRAPH** は、大文字と小文字の区別に注意して入力してください。
- グラフ名に空白が含まれる場合、二重引用符 (") で囲んでください。たとえば **graph="Global History"**。

バッチ処理に使用されるキーワードおよびパラメータの詳細は、ページ 57 の [キーワード](#) を参照してください。

バッチによるグラフの実行時に、グラフまたは表のデータは、テキスト ファイル形式で生成することができます。たとえば、グローバル履歴グラフ テンプレートを使用してグラフを作成する際に、**GRAPHTYPE** を **CSV** または **TSV** に指定すると、テンプレートに保存されたグラフの種類に上書きされ、指定したテキスト ファイル形式でデータが表示されます。バッチ処理の後、Performance Manager により、標準出力に印刷されます。標準出力をディスク ファイルにリダイレクトすることもできます。

たとえば、**ovpmbatch GRAPHTEMPLATE=VPI\_GraphsAgents.txt "Global History" SYSTEMNAME=system.abc.com GRAPHTYPE=XML >globahistory.xml** と指定すると、グローバル履歴グラフが XML 形式で生成され、標準出力は指定したディスク ファイルにリダイレクトされます。

また、以下のパラメータを指定することで、選択したディレクトリに出力することもできます。

```
outputdir=<directory>
```

ディレクトリが存在しない場合、作成されます。出力ディレクトリを指定すると、出力が **stdout.txt** として、指定したディレクトリに保存されます。**HTML** ファイルは **graph.htm** として保存され、最初のグラフ イメージは **graph.png** として保存されます。その他のグラフ イメージは **graph1.png**、**graph2.png** というように名前が付けられます。

▶ 表形式で生成された出力は、**graph.htm** ファイルに **HTML** テキストで書き込まれます。

標準出力をディスク ファイルにリダイレクトせず、出力ディレクトリも指定しない場合、バッチ処理が正常に終了後、グラフ表示の URL が表示されます。 **ovpmbatch** 操作の出力は、Performance Manager Web サーバーの `<INSTALL DIR>\www\webapps\OVPM\datafiles\batch\<session_id>` ディレクトリに保存されます。

この場合、`<session_id>` は、セッション ID に基づいて Performance Manager により自動生成された英数字の値を指します。

## 出力ファイルの管理

ユーザーが **ovpmbatch** を実行して HTML グラフを生成した場合、HTML ファイルおよび PNG ファイルは、グラフ生成に使用したパラメータに基づいて、デフォルトの出力ディレクトリに書き込まれます。

たとえば、mysys.india.net から `<install_dir>/bin/ovpmbatch` `GRAPHTEMPLATE=Agents GRAPH="Global History" SYSTEMNAME=mysys.india.net` コマンドをコマンドプロンプトで入力してグローバル履歴グラフを作成した場合、URL アドレス `http://<systemname>:<portnumber>/OVPM/datafiles/batch/<graph>.htm` が表示されます。

この場合、`<graph>` は、Performance Manager により生成されたランダムな数を表します。

出力を Web ページとして表示するには、ブラウザに `http://<systemname>:<port number>/OVPM/datafiles/batch/<graph>.htm` を入力します。

**ovpmbatch** により標準グラフが作成されるとき、同時に HTML ファイルおよび必要な png イメージ ファイルが作成されます。 **ovpmbatch** 表グラフの出力は、HTML 形式で `<graph>.htm` として保存されます。

出力ファイルをローカル システム ディスクに検出するには、`<install_dir>/www/webapps/ovpm/datafiles/batch` ディレクトリを指定します。



# キーワード

以下の表は、グラフ生成時に、グラフ テンプレート、URL、バッチ処理で使用されるパラメータおよびキーワードのリストです。

表 1 標準パラメータ

キーワード	値	説明
<b>PARAMETER&lt;n&gt;:</b> <b>-p&lt;n&gt;</b> この場合、<n> は 1 ~ 9 の数字です。	パラメータ値	<p>デフォルトのパラメータ値を定義します。パラメータを使用すると、汎用的なテンプレートを簡単に作成でき、パラメータ値ごとに異なるグラフ テンプレートを作成する必要がなくなります。</p> <p>テンプレート ファイル処理中に、9 つまでのパラメータ <b>PARAMETER1</b> ~ <b>PARAMETER9</b> を使用して置換を行うことができます。置換は、テンプレートの行ごとに、その行の処理前に行われます。これらのパラメータを使用して、テンプレート ファイル構文中の任意の部分 (フィルタ値、メトリック名、クラス名など) で置換を行うことができます。</p> <p>パラメータのデフォルト値は、テンプレート ファイル内で <b>PARAMETER</b> ステートメントを使用して設定します。このステートメントは、<b>PARAMETER</b>、次に 1 ~ 9 の 1 桁の数値、最後にコロンという構文に従って記述します。 <b>PARAMETER1:</b>、<b>PARAMETER2:</b> ~ <b>PARAMETER9:</b> のようになります。パラメータにデフォルト値が指定されると、それ以降のテンプレート行で見つかったすべての <b>@@PARAMETERn</b> 構文が置換されます。たとえば、以下のステートメントは同等になります。</p> <p><b>FILTER: SYSTEMNAME="MYSYSTEM"</b> と、<b>PARAMETER1: MYSYSTEM FILTER: SYSTEMNAME=@@PARAMETER1</b></p> <p>パラメータの値は、URL またはコマンドライン インターフェイスから上書きできます。</p>
<b>CUSTOMER:</b>	顧客名	顧客名は、データへのアクセスを、その顧客に属するデータに限定します。各顧客のデータにアクセスするには、それぞれ異なるパスワードが必要です。空欄の顧客の場合、ログオンにパスワードが割り当てられていない限り、顧客名またはパスワードを指定する必要はありません。
<b>PASSWORD:</b>	パスワード	顧客により制限される表示がデータソースに対して有効な場合、その顧客のデータにアクセスするには、パスワードが必要です。このパスワードには、それぞれの顧客に固有のパスワードか、空欄の顧客パスワードを使用できます。空欄の顧客の場合、パスワードが割り当てられていない限り、パスワードを指定する必要はありません。
<b>GRAPHTEMPLATE:</b>	テンプレート ファイル名 (たとえば Agents)	グラフの仕様が含まれているファイルの名前を識別します。
<b>GRAPH:</b>	グラフ名	グラフ テンプレート ファイル内のグラフの名前を識別します。
<b>GRAPHTITLE:</b>	タイトル文字列	グラフのタイトル文字列を指定します。*

表 1 標準パラメータ ( 続けて )

キーワード	値	説明
<b>GRAPHSUBTITLE :</b>	2 番目のタイトル文字列	グラフの 2 番目のタイトル文字列を指定します。*
		<p>* タイトルまたはサブタイトル フィールドに、実際の値を置換するキーワードを追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• @@[SYSTEM] - グラフ作成されるシステム名。</li> <li>• @@DATERANGE - グラフに示される合計時間 ( デフォルト値は 7 日間 )。</li> <li>• @@POINTSEVERY - 各データ ポイントに要約する時間。</li> <li>• @@STARTTIME - グラフの開始時刻 ( たとえば 05/14/07, 06.00 PM )。</li> <li>• @@STOPTIME - グラフの最後の時刻 ( たとえば 05/21/07, 06.00 PM )。</li> </ul>
<b>YAXISTITLE :</b>	タイトル文字列	左 Y 軸のラベルを指定します。
<b>YAXISTITLERIGHT :</b>	タイトル文字列	右 Y 軸のラベルを指定します。
<b>GRAPHTYPE :</b>	line	折れ線または混合グラフ。
	area	塗りつぶされた面グラフ。
	bar	棒グラフ。
	hbar	水平棒グラフ。
	mixed	メトリックを折れ線と面に組み合わせたもの。
	pie	円グラフ。
	table	時間が縦、メトリックが横の表。
	htable	時間が横、メトリックが縦の表。
	gauge	スピードメーター型ゲージ、各メトリックに 1 つ。
	csv	カンマ区切り値のテキストファイル。
	tsv	タブ区切り値のテキストファイル。
	excel	Microsoft Excel スプレッドシート ( クライアントシステムに Microsoft Excel が必要 )。
	xml	XML データ表示。Performance Manager は、バッチ処理後生成された XML 出力を、標準出力で印刷します。
<b>GRAPHBACKGROUND :</b>	<color>	グラフ背景の色です。
<b>GRAPHMETRICSPERGRAPH :</b>	<number>	単一グラフ上のメトリックの最大値です。デフォルトは 8 です。

表 1 標準パラメータ (続けて)

キーワード	値	説明
<b>GRAPHMULTIPLEGRAPHS:</b>	Yes または No	デフォルト値は No。Yes にすると、グラフ化するメトリックの合計数が <b>GRAPHMETRICSPERGRAPH:</b> の値を超えた場合に追加グラフを作成します。 テキスト エディタには、デフォルト値が表示されません。デフォルト設定を変更するには、キーワードを明確に入れる必要があります。
<b>DATERANGE:</b>	<daterange>	グラフに含める日付 / 時刻の範囲です。 <b>DATERANGE: ENDDATE: STARTDATE: STARTTIME: STOPTIME:</b> のいずれも指定しなかった場合、デフォルトの表示期間として <b>7 日</b> 、最終日時として <b>現在の時刻</b> が使用されます。表示期間に「すべて」を指定すると、データソースで収集されたすべてのデータがグラフ作成に使用されます。
<b>BEGINDATE: ENDDATE:</b>	<datetime>	グラフに含める最初および最後の日付 / 時刻です。このパラメータは、グラフ全体に含める時刻を設定する <b>DATERANGE:</b> パラメータと連動して作用します。 <b>ENDDATE:</b> フィールドの形式は、Performance Manager サーバー システム上の設定により異なります。 <b>ENDDATE</b> には、 <b>DATERANGE</b> に設定した期間の最終日時を設定します。デフォルトの最終日時は、 <b>現在の日時</b> で、この設定では現在の日時が期間の最終日時になります。「最後の日時」を指定すると、ログ ファイルにデータが最後に収集された日時が使用されます。また、 <b>ENDTIME</b> に日時を指定することも可能です。日付および時刻の形式は、Performance Manager サーバーと一致するものが使用されます。たとえば、特定の地域で日付形式 <b>MM/DD/YYYY</b> が使用されている場合、同様の形式を使用してください。指定した値にスペース文字が入る場合、値を引用符で囲ってください。
<b>STARTTIME: STOPTIME:</b>	<datetime>	<b>STARTTIME</b> は、グラフに含める最初の日付 / 時刻で、 <b>STOPTIME</b> はグラフに含める最後の日付 / 時刻です。 <b>STARTTIME:</b> および <b>STOPTIME:</b> パラメータを使用して、開始日時と最終日時を明確に設定します。この場合、 <b>DATERANGE:</b> 、 <b>BEGINDATE:</b> および <b>STOPTIME:</b> に指定した値は無視されます。 <b>STARTTIME:</b> および <b>STOPTIME:</b> による日時の指定には、ロケールで設定された形式を使用します ( <b>YYYY,MM,DD HH:MM:SS</b> )。値は、以下の順序で指定する必要があります。 <b>年, 月, 日, 時間, 分, 秒。</b> たとえば、2007 年 8 月 17 日 23 時 30 分 50 秒を指定する構文は、 <b>2007, 8, 17, 23, 30, 50</b> です。
<b>STACKED:</b>		面グラフおよび棒グラフで、1 つのメトリックの値を前のメトリックに「積み重ねる」よう指定します。

表 1 標準パラメータ ( 続けて )

キーワード	値	説明
<b>NUMBEROFPOINTS :</b>	<number>	<p>グラフに表示するデータ ポイントの数です ( デフォルトは 100 ポイント )。この値は、各データ ポイントでのデータの要約に使用されるもので、 <b>POINTSEVERY</b> 値が自動に設定されている場合、グラフが単一ウィンドウに収まるよう調整されます。 <b>POINTSEVERY</b> が自動以外の値に設定されている場合、 <b>Performance Manager</b> により各グラフのデータ ポイント / 間隔が決定され、前後のデータ ポイントまたは間隔を表示するオプションが使用可能になります。</p> <p>線グラフ、面グラフ、表グラフの場合、デフォルトのポイント &lt; 数 &gt; は 100 です。円グラフ、ゲージグラフの場合、ポイント数を指定する必要はありません。</p> <p>注 : ポイント &lt; 数 &gt; の値を 1000 より大きな値に設定しないことをお勧めします。</p>
<b>POINTSEVERY :</b>	<pointsevery>	<p>グラフの精度 ( データ ポイント数 ) を決定することができます。この値は <b>NUMBEROFPOINTS</b> 値とともに使用され、使用する集計レベルを決定します。</p>
<b>FORCEPOINTSEVERY :</b>	<pointsevery>	<p><b>pointsevery</b> 値をこの値に強制設定することを指定します。この値を指定すると、グラフの作成時にユーザーが選択した <b>pointsevery</b> 値に上書きされます。</p>
<b>SORTBY :</b>	value または reverse	<p>メトリックを平均値でソートします。すなわち、高い値から低い値への降順 ( value )、あるいは低い値から高い値への昇順 ( reverse ) にソートします。標準グラフおよび複雑なグラフのデフォルト値は、仕様されている順序でメトリックをソートします。比較グラフ ( インスタンス比較、システム比較 ) のデフォルト値は、メトリックを平均値でソートします。</p>
<b>SORTBYVALUE :</b>		<p>メトリックを平均値でソートします。これは、比較グラフのデフォルト値となります。</p>
<b>SUMFROMRAW :</b>		<p>このパラメータを指定して、 <b>Performance Agent</b> データソースからのデータを要約されていない形でシステムから取得し、 <b>Performance Manager</b> で要約します。この機能は、データソースによるデータの集計が望ましくない場合にのみ使用してください。この機能を使用すると、システムから大量のデータが転送され、パフォーマンスが低下する場合があります。このパラメータは、パフォーマンス データソースからデータを取得する時にのみ指定することができます。</p> <p>注 : このキーワードにはパラメータはありませんが、 <b>SUMFROMRAW=value</b> 形式で使用し、 <b>ovpmbatch</b> で必要とされるパラメータ パターン <b>key=value</b> を保持する必要があります。</p>
<b>MINY :</b>	<real number>	<p>左 Y 軸 ( デフォルト ) の最小値です。グラフの種類がゲージの場合、パラメータは、ゲージの目盛り上の最小値を選択します。</p>
<b>MAXY :</b>	<real number>	<p>左 Y 軸 ( デフォルト ) の最大値です。グラフの種類がゲージの場合、パラメータは、ゲージの目盛り上の最大値を選択します。</p>
<b>MINYR :</b>	<real number>	<p>右 Y 軸 ( オプション ) の最小値です。</p>

表 1 標準パラメータ ( 続けて )

キーワード	値	説明
<b>MAXYR:</b>	<real number>	右 Y 軸 ( オプション ) の最大値です。
<b>DISPLAYHTMLGRAPH</b>	なし	このパラメータを使用すると、HTML グラフのヘッダーとトレーラが Performance Manager ユーザー インターフェイスで作成したグラフの印刷ビューと同様に表示されます。

次の表の仕様は、予測グラフにのみ適用されます。

表 2 予測グラフの仕様

キーワード	値	説明
<b>FORECASTTYPE</b>	smooth	実際のメトリックと、平滑化したメトリックの線で、グラフが作成されます。平滑化は、データ ポイントごとに 7 つのポイント実行平均 ( ポイント自体と、前後それぞれ 3 ポイント ) を取り、これを最大 10 回繰り返して実施されます。平滑化されたグラフは、将来のデータ値を予測するために既存のデータが延長されることはなく、既存のデータのトレンドを表示するものです。 <b>注:</b> 平滑化トレンドでグラフを作成する場合、予測最終日を指定する必要はありません。
	linear	最小 2 乗法による線形回帰計算を行って、元のデータを直線に当てはめます。データ終了後も、この予測される線形を予測最終日付に到達するまで延長します。
	exp	トレンドは最初、直線に近似していますが、その後は、指数拡張の特徴である傾斜の大きな曲線で増加あるいは減少が表され、ポイント は「n」値を反映し、通常は e 値または 2.718 を変数の値でべき乗します。 ほとんどのデータは線形方法で予測できますが、非線形の動作が判明しているメトリックもあります。たとえば、システムの負荷が高くなるにつれ、通常、応答時間は指数的に低下します。このようなタイプのメトリックでは、指数曲線方法が適しています。
	s	トレンド特定方法による予測線が <b>S-Curve Min</b> 値と <b>S-Curve Max</b> 値の間に入る S 字曲線に沿うようなグラフを作成します。 S 字曲線を使用した方法は、CPU 使用率など境界のあるメトリックを予測する際に有効です。CPU 使用率は 0% を下回ったり、100% を上回ることはありません。線形方法や指数方法による予想は、制約が加えられていないため、無限の値の予測に使用されます。
<b>FORECASTDATEDAY:</b> <b>FORECASTDATEMONTH:</b> <b>FORECASTDATEYEAR:</b>	<1-31> <1-12> <1970-2037>	予測期間の終わりを示します。この日付は、常にグラフの最終日時以降になります。予測期間は、実際のデータ期間に指定した期間以内に収まるようにしてください。 <b>注:</b> 予測の最終日時は、平滑化トレンド特定方法には使用されません。
<b>SHOWVALIDATE:</b>		最終日時以降から予測の最終日時よりも前のデータがある場合、これを確認データとして表示します。Performance Manager では、このデータは予測に使用されませんが、予測が実際のデータ一致しているかどうか確認することができます。

表 2 予測グラフの仕様 (続けて)

キーワード	値	説明
<b>INTERVALTYPE :</b>	None	<b>INTERVALTYPE</b> のデフォルト値です。予測の信頼限度曲線の上限および下限は描画されません。
	confidence	上限および下限からなる信頼線が描画され、予測値の平均 (トレンドライン) が、所定の割合の時間に入る範囲が示されます。
	prediction	上限および下限からなる信頼線が描画され、予測値 (すべてのポイント) が、所定の割合の時間に入る範囲が示されます。予測限界はすべてのポイントに適用され、平均値だけに適用されるわけではないため、予測限界の範囲は、信頼限界よりも常に広がります。
<b>CONFIDENCE :</b>	<number>	信頼間隔または予測間隔の表示に使用されるパーセント。値は 70、75、80、90 です。
<b>SEASONHOD :</b>		時間による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は、時間による周期性を考慮します。
<b>SEASONDOW :</b>		曜日による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は、曜日による周期性を考慮します。
<b>SEASONWOM :</b>		週による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は、週による周期性を考慮します。
<b>SEASONMOY :</b>		月による周期性で予測精度が向上するかどうかを自動的に判定し、予測精度が向上する場合は、月による周期性を考慮します。

以下の仕様は、メトリックより先に指定することができます。その場合、指定した値がデフォルトの仕様になります。以下の仕様は、必要に応じて、メトリック単位で上書きできます。

表 3 デフォルトのメトリック仕様

キーワード	値	説明
<b>DSN:</b>	<name>	名前付きのデータソースを識別する文字列です。
<b>DATASOURCE:</b>	<b>PA</b>	HP Performance Agent (旧称 MeasureWare Agent (MWA)) がデータソースです。この場合、エージェントを実行しているシステムの名前を <b>SYSTEMNAME</b> 仕様に含める必要があります。
	<b>EPC</b>	この場合、Operations Agent を実行しているシステムの名前を <b>SYSTEMNAME</b> 仕様に含める必要があります。  データソースが指定されず、1つ以上のシステム名が指定された場合、データソースは各システム上のエージェントに基づいて選択されます。1つのシステム上で複数のエージェントが使用可能な場合、使用されるエージェントは次の順に選択されます [PA、EPC]。
<b>SYSTEMNAME:</b>	<system name>	Performance Agent または EPC を実行しているシステムの名前を指定します。(この仕様は、 <b>DATASOURCE</b> が PA または EPC に設定されている場合、必須です)。複数のシステム名を(メトリック定義よりも前に)指定した場合、各システムについてグラフが繰り返されます。
<b>DSEXTENDED:</b>	<datasource:systemname>	<b>DATASOURCE</b> と <b>SYSTEMNAME</b> を同時に指定できます。このパラメータで指定する値は、 <b>DATASOURCE</b> 値、コロン、および <b>SYSTEMNAME</b> 値からなります。 <b>SYSTEMNAME</b> 値が必須でない場合、 <b>DATASOURCE</b> 値のみで十分です。 有効な拡張データソースの例として、 <b>DSEXTENDED: PA.mysys.net.com</b> があげられます。
<b>CLASS:</b>	<class name>	名前付きのデータソースにより提供されるメトリックのクラスの名前を指定します。データソースがこのデータクラスを公開しない場合、このメトリックは無視されます。 <b>注:</b> 同じクラス内のメトリックであれば、各メトリックに対してこの仕様を繰り返す必要はありません。
<b>YAXISTITLE:</b>	<units string>	ゲージグラフの種類に対して、このパラメータは、ゲージの最下部に表示されるユニットラベルを選択します。



以下の仕様は、特定の1つのメトリックに関して指定できます。その次のメトリックが以下の点を指定しない場合、デフォルト値が使用されます。

表 4      メトリックの仕様

キーワード	値	説明
<b>METRIC:</b>	<metricname>	<p>データソースから提供されるメトリックの名前を指定します。メトリックが <b>CLASS</b> 内部で公開されない場合、このメトリックは無視されます。</p> <p><b>計算したメトリック</b></p> <p>計算したメトリックは、他のメトリックに対する計算を行うことで得られます。計算したメトリック名は、他のメトリック名、定数、および演算子 +、-、*、/（および）から構成されます。</p> <p>メトリックの計算は、数学的な優先順位の規則を適用します。計算に乗算 / 除算、加算 / 減算の組み合わせを含める場合は、かっこを使用する必要があります。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>5+(2*20) = 45</math></li> <li>• <math>5+2*20 = 140</math></li> </ul> <p>かっこを使用する場合は、かっこの開始、終了が正しく対応していることを確認してください。また、計算したメトリックにはスペースを含めないでください。</p> <p>計算したメトリックの例：</p> <pre><b>CLASS: APPLICATION</b> <b>METRIC: (APP_CPU_TOTAL_TIME*100.0)/INTERVAL</b></pre>



表 4 メトリックの仕様 (続けて)

キーワード	値	説明
<b>LABEL:</b>	<label string>	<p>グラフ上でメトリックを識別するのに使用するラベルを指定します。このラベルには、リテラル値と特別な置換変数の参照を取り込むことができます。例：</p> <p>@@[SYSTEM]:@@[CLASS]:@@[METRIC] では <b>mysys.net.com:GLOBAL:GBL_CPU_TOTAL_UTIL</b> のようなラベル名が表示され、デフォルトの @@[LABEL] では、CPU% のようなラベルになります。</p> <p>ラベルが指定されていない場合は、デフォルトのラベル仕様に基づいてメトリックのラベルが表示されます。デフォルトでは、これは @@[LABEL] と同じですが、<b>Performance Manager</b> サーバー システム上の設定ファイルを編集することで変更できます。</p> <p>変数は、次のように置換されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• @@[LABEL] - データソースで指定されるメトリック ラベル (CPU% など)。データソースでラベルが指定されていない場合は、メトリック名が使用されます。</li> <li>• @@[METRIC] - メトリック名 (<b>GBL_CPU_TOTAL_UTIL</b> など)。</li> <li>• @@[CLASS] - メトリック クラス (<b>GLOBAL</b> など)。</li> <li>• @@[SYSTEM] - メトリックを提供するシステム名 (<b>mysys.net.com</b> など)。</li> <li>• @@[DATASOURCE] - このメトリックのデータソース (<b>PA</b>、<b>EPC</b>、<b>RepSys</b> など)。</li> <li>• @@metric - 同じデータソースおよびクラスからのメトリックの値。</li> </ul> <p>たとえば、@@BYDSK_DEVNAME と指定すると、<b>BYDSK_DEVNAME</b> メトリックの値が、メトリックのラベルとして表示されます。<b>BYDSK_DEVNAME</b> メトリックの値が <b>0</b> の場合、<b>Disk</b> @@BYDSK_DEVNAME は、<b>Disk 0</b> のラベルになります。</p>
<b>METRICFILTER</b>	<FILTER>	データに適用するデータ フィルタを指定します。フィルタ仕様を満足しないデータ レコードは、最終計算に使用されません。
<b>COLOR:</b>	<color>	メトリックに使用される色。
<b>LINEWIDTH:</b>	<number>	このメトリックを描く線幅のピクセル数です。この仕様は、 <b>GRAPHTYPE</b> が line で、 <b>LINESTYLE</b> が solid のときのみ有効です。デフォルト値は 2 です。
<b>LINESTYLE:</b>	solid	実線です。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	dashed	破線です。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	dotted	点線です。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	dash-dotted	一点鎖線です。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	dash-dot-dotted	二点鎖線です。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。

表 4      メトリックの仕様 ( 続けて )

キーワード	値	説明
<b>Marker</b>	none	ライン上にマーカーを付けません。
	auto	ライン マーカーを自動選択します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	square	有効な各ポイントに空の正方形を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	circle	有効な各ポイントに円を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	triangle	有効な各ポイントに三角形を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	dot	有効な各ポイントに球を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	cube	有効な各ポイントに立方体を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	diamond	有効な各ポイントにひし形を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	star	有効な各ポイントに星を表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	cross	有効な各ポイントにクロス マーカーを表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	vertical	有効な各ポイントに垂直マーカーを表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
	horizontal	有効な各ポイントに水平マーカーを表示します。 <b>GRAPHTYPE</b> が line の時のみ使用されます。
<b>SUMTYPE</b>	auto	このパラメータを指定してある場合、 <b>Performance Manager</b> はデータソース ( <b>Performance Agent</b> および <b>EPC</b> ) で指定される総和型を使用します。データソースで要約方式が指定されていない場合、 <b>Performance Manager</b> はデータの要約に "Average" を使用します。
	average	数値を合計し、値の数で除算することで、数値を結合します ( 平均 ) 。数字以外のデータは、最後の値を使用します。
	sum	値を追加して数値を結合します。
	minimum	最小の値をとって数値を結合します。
	maximum	最大の値をとって数値を結合します。
	last	最後に受信した値をとって、数値または非数値を結合します。
	count	各データ ポイントに結合されたデータソースのレコード数をカウントします。

次の仕様は、表にのみ適用されます。これらの仕様は、表内のデータに対して行われる特殊な後処理を示しています。

表 5 表の仕様

キーワード	値	説明
<b>TABLEFILTER:</b>	<b>TABLEFILTER:</b>	セルの内容により、表のデータにフィルタをかけます。また、 <b>TABLEFILTER:</b> では、フィルタ条件を二重垂直棒 "  " で区切り、1つ前の条件または1つ後の条件のいずれかが真であることを表します。また、二重アンパサンド "&&" で、1つ前の条件および1つ後の条件がいずれも真であることを表します。 <b>TABLEFILTER:</b> の仕様は表全体に適用され、 <b>METRIC:</b> の仕様の前に行う必要があります。
<b>TABLEHIGHLIGHT:</b>	<b>TABLEHIGHLIGHT:</b>	この仕様は、表内の項目の色を変える場合に使用できます。この仕様は、適用する <b>METRIC:</b> 仕様の後に置きます。 構文: <b>Condition Value Color [&amp;&amp;...]</b> 例: <b>&gt;80 Red</b> 複数の仕様は "&&" で区切って指定します。最後の指定により、使用する色が設定されます。 例: <b>&gt;5 Yellow &amp;&amp; &gt;10 Magenta &amp;&amp; &gt;80 Red normal10</b> <b>normal &lt;=5</b> <b>Yellow &gt;5 および &lt;=10</b> <b>Magenta &gt;10 および &lt;= 80</b> <b>Red &gt; 80</b> 例: <b>&gt;80 Red &amp;&amp; &gt;10 Magenta &amp;&amp; &gt;5 Yellow</b> <b>normal &lt;=5</b> <b>Yellow &gt;5</b>

以下の仕様には、表で説明するような特別な意味があります。

表 6 特殊用途の仕様

キーワード	値	説明
<b>FAMILY:</b>	<Family Name>	グラフ テンプレート ファイルに含まれるグラフをより具体的に示す名前を指定するために、そのグラフ テンプレート ファイル内で使用します。ファミリー名は、グラフのセットを一意に識別するような名前を選択する必要があります。各グラフ テンプレート ファイル内で、 <b>FAMILY:</b> パラメータを1つのみ使用することができます。
<b>CATEGORY:</b>	<Category Name>	グラフ テンプレート ファイル内で、グラフの一般カテゴリを示すために使用します。別の <b>CATEGORY:</b> パラメータが現れるまで、各グラフにそのカテゴリが関連付けられます。
<b>DESCRIPTION:</b>	<string>	グラフ テンプレート ファイル内で、グラフを説明する文字列を指定するために使用します。各グラフに異なる <b>DESCRIPTION</b> を指定できます。

表 6 特殊用途の仕様 (続けて)

キーワード	値	説明
<b>GRAPHHEADER:</b>		このパラメータは、グラフ テンプレート ファイル内でのみ使用が可能です。HTML グラフの上に置かれる 1 行以上のテキストのセクションを開始します。このセクションを終了するには、 <b>END_GRAPHHEADER:</b> パラメータを使用します。 グラフ ヘッダーは、作成したグラフを印刷ビューで開いた場合、またはバッチ処理後に生成した HTML グラフでのみ表示されます。
<b>GRAPHTRAILER:</b>		このパラメータは、グラフ テンプレート ファイル内でのみ使用が可能です。HTML グラフの下に置かれる 1 行以上のテキストのセクションを開始します。このセクションを終了するには、 <b>END_GRAPHTRAILER:</b> パラメータを使用します。 グラフ トレーラは、作成したグラフを印刷ビューで開いた場合、またはバッチ処理後に生成した HTML グラフでのみ表示されます。

# 11 Performance Manager の日常的なメンテナンス

Performance Manager は日常的なメンテナンス タスクを実行し、不要になったファイルやディレクトリのディスク容量を再要求し、24 時間アクセスされていないデータソースを閉じます。

**ovpmbatch** バッチ処理後に生成された出力ファイルは、  
<INSTALL DIR>\www\webapps\OVPM\datafiles\batch ディレクトリに保存されます。  
これらのファイルは 24 時間経過すると、自動的にクリーンアップされます。バッチ出力ファイルは、ローカル システムの別の場所に保存するか、Performance Manager でファイルを保持するよう設定することができます。

バッチ出力ファイルを保持するには、次の手順に従います。

- 1 OVPConfig.ini ファイル(<PM\_data\_dir>/shared/server/conf/perf ディレクトリ内)を開きます。
- 2 **RETAIN\_BATCH\_FILES** パラメータを **TRUE** に設定します。



デフォルトでは、**RETAIN\_BATCH\_FILES** パラメータは OVPConfig.ini 内で定義されていません。このパラメータを、ファイルに手動入力してください。**RETAIN\_BATCH\_FILES** は **FALSE** に設定することをお勧めします。また、パラメータを **TRUE** に設定した場合は、出力ディレクトリのファイルを定期的にクリーンアップしてください。

- 3 ファイルを保存します。
- 4 Performance Manager を再起動します。

このメンテナンスは、毎日現地時間の午前 3 時に実行されるようにスケジューリングされています。メンテナンス スケジュールを設定するには、次の手順に従います。

- 1 OVPConfig.ini ファイル(<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内)を開きます。
- 2 メンテナンス タスクのスケジュールを行いたい時間(時/分)を **DAILY\_MAINTENANCE\_TIME** パラメータに指定します。このパラメータのデフォルト値は 03:00 です。指定する時間は 24 時間形式で指定する必要があります。たとえば、23:30 とします。
- 3 ファイルを保存します。
- 4 Performance Manager を再起動します。

ディスク容量のクリーンアップは、設定されなくなった顧客およびユーザーに対しても実行されます。顧客およびユーザーごとに、顧客またはユーザーのグラフを格納するディレクトリが存在します。顧客ログオンに属するファイルは、次のディレクトリに検出されています。

- 顧客ごとに、設定ディレクトリ <PM\_data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_<customername> が存在します。
- 空欄の顧客については、ユーザー ディレクトリは <PM\_data\_dir>/conf/perf/VPI\_USER\_<username> にあります。
- 特定の顧客のユーザーについては、ユーザー ディレクトリは <PM\_data\_dir>/conf/perf/VPI\_CUST\_<customername>/VPI\_USER\_<username> にあります。

これらのディレクトリとディレクトリ内のファイルは、顧客あるいはユーザーが設定されなくなると、自動的に削除されます。顧客またはユーザーを削除した後も、これらのファイルを残しておきたい場合は、ローカルシステムの別の場所に保存します。

## 12 グラフ テンプレートの管理

グラフ テンプレートの高度な機能の一部は、手動で編集を行うことができます。ほとんどのグラフ属性は、**Performance Manager** ユーザー インターフェイスから指定することができます。**Performance Manager** インターフェイスでは設定できない仕様がいくつかあるため、グラフ テンプレート ファイルの手動編集が必要になります。

グラフ テンプレート作成は、標準の **Performance Manager** ユーザー インターフェイスを使用し、ユーザー インターフェイスでサポートされていない項目のみ手動で編集を行います。

**Performance Manager** ユーザー インターフェイスを使用する場合、グラフは特定の領域に保存され、グラフを作成したユーザーは、ここでグラフを修正したり、または削除を行います。ユーザーが生成したグラフを、すべてのユーザーが **Performance Manager** のすぐに見えるサンプル グラフのように、読み取り専用モードで利用できるようにすることが望ましい場合、ユーザー定義のグラフを恒久的グラフ領域に移動することができます。

パラメータ集合は、グラフ定義テンプレートを構成するもので、グラフの生成に URL 内およびバッチ処理で使用されます。これらのパラメータの詳細は、ページ 57 のキーワードを参照してください。

### グラフ テンプレート ファイルの編集

**Performance Manager** のデザイン ウィザード機能を使用して、新しいグラフを作成したり、定義済みのグラフやユーザーが作成したグラフを修正し、新しいグラフとして保存することができます。



そのまま使用できるサンプル グラフは、修正または削除しないことをお勧めします。

**Performance Manager** で、計算メトリックなどのユーザー インターフェイスでサポートされていない機能を設定するには、vi やメモ帳などのテキスト エディタを使用してグラフを作成することができます。グラフ定義を手動で編集することで、機能の一部の設定ができます。グラフを手動でゼロから作成することもできますが、ユーザー インターフェイスで基となるグラフ定義を作成して保存し、その後で複雑な機能を手動で追加することをお勧めします。


グラフ テンプレート名は VPI\_Graphs\*.txt となり、Performance Manager サーバー システムの異なるディレクトリに保存されます。

グラフの種類	場所
定義済みグラフ	<install_dir>/newconfig/OVPM
空白ログオンのためのユーザー グラフ	<PM_data_dir>/conf/perf
空欄の顧客、非空欄顧客のためのユーザー グラフ	<PM_data_dir>/conf/perf/ VPI_USER_<username>
顧客グラフ	<PM_data_dir>/conf/perf/ VPI_CUST_<customername>
顧客に属するユーザーのためのユーザー グラフ	<PM_data_dir>/conf/perf/ VPI_CUST_<customername>/ VPI_USER_<username>

ユーザー インターフェイスから、これらのディレクトリに保存されたファイルを表示することができます。ユーザー インターフェイスから保存されるファイルは、<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリに保存されます。データ ディレクトリ内のすべてのファイルの名前は VPI\_GraphsUser<graph\_family\_name>\*.txt となります。ユーザー インターフェイスのグラフ名は User... のように表示されます。グラフ テンプレート ファイル名は、ユーザー インターフェイスには表示されません。ユーザー インターフェイス内のグラフは、ファミリーにより分類されます。

グラフ テンプレートを手動で編集する場合は、以下の点に注意してください。

- 1 すべてのグラフの名前は VPI\_Graphs で開始し、末尾には拡張子 .txt を付けること。上記の表記法を満足していない名前のファイルは、グラフ テンプレート ファイルとして認識されません。また、ファイルは newconfig または datadir ディレクトリのいずれかに保存してください。
- 2 データ ディレクトリ内のユーザー定義グラフ テンプレート ファイル名に、ユーザー名 (VPI\_GraphsUser\*.txt ではなく VPI\_Graphs\*.txt) が含まれない場合、newconfig ディレクトリと data\_dir ディレクトリに同じ名前のグラフ テンプレート ファイルが存在しないことを確認してください。
- 3 同じファミリー名を含むグラフ テンプレート ファイルを 2 つ作成しないでください (**FAMILY:** パラメータに同じ文字列を使用しないでください)。このようにすると、ユーザー インターフェイスからグラフを使用するときに見分けにくくなります。

 newconfig ディレクトリ内の VPI\_Graphs テンプレート ファイルは修正または削除しないでください。デフォルトのグラフ テンプレートを修正したい場合は、別のファイル名でコピーを作成してください。デフォルトのテンプレート ファイルは、Performance Manager を最新バージョンにアップグレードしたときに上書きされます。



- 4 グラフ テンプレート ファイルは、プレーン テキスト形式です。行の長さは 2000 文字より短くし、各行の末尾に改行記号を付けます。その他の形式情報は、ファイル内に保存できません。テンプレート ファイルの内容は、以下の表で説明しています。

内容	説明
コメント	空白行またはシャープ記号(#) で始まる行は、コメントと見なされ、無視されます。
単一行キーワード	ほとんどの行にはキーワード(すべて大文字、末尾にコロン: 付き)、1 つ以上の空白および値が含まれます。
複数行キーワード	一部のキーワードには、複数行にわたる値を指定できます。1 つのキーワード (GRAPHHEADER: など) でエントリが開始し、終了キーワード (END_GRAPHHEADER: など) までのすべての後続行は、値の一部と見なされます。この場合、キーワードは単独の行を設ける必要があります。以下に例を示します。  <b>GRAPHHEADER:</b> This is my graph header <b>END_GRAPHHEADER:</b> 次の例は正しく機能しません。 <b>GRAPHHEADER: My header</b> <b>END_GRAPHHEADER:</b>

単一のグラフまたは表を定義するキーワードは、GRAPH: キーワードと END\_GRAPH: キーワードの間に置きます。一部のキーワードは、最初のグラフ定義または表定義の開始よりも前に置くことができます。そのようなキーワードは、グラフ テンプレート ファイル全体に適用されます(例: FAMILY: など)。すぐに使用できるサンプル テンプレートも、グラフ作成時のキーワードを確認するためのサンプルとして使用することができます。

## グラフ テンプレートのデザイン カスタマイズ

作成したグラフを印刷ビューで表示したり、バッチ処理後は、グラフは HTML 形式で開いたりすることができます。このレポート テンプレートのデザインには、自社のロゴなどの情報を入れて、HTML 形式でカスタマイズすることができます。レポート テンプレートのデザインを修正するには:

- 1 OVPMPReportTemplate.htm ( <PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリ内) を HTML エディタで開きます。
- 2 必要に応じて、テンプレートを修正します。
- 3 ファイルを保存します。

▶ OVPMPReportTemplate.htm で行った変更は、印刷ビュー時にのみ表示されます。グラフ生成に **ovpmbatch** スクリプトを使用している場合、OVPMPReportTemplate.htm で行った変更は、バッチ出力ファイルに表示されます。

## ユーザー設計したグラフの恒久的な使用

**Performance Manager** ユーザー インターフェイスを使用して作成されたグラフは、<data\_dir> ディレクトリに保存されます。**Performance Manager** ユーザー インターフェイスを使用することで、<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリのグラフ定義は、正しいログオンおよびパスワードを取得しているどのユーザーでも、変更または削除できます。**Performance Manager** は、別のユーザーに属するグラフの読み出し、修正、保存が行えません。すぐに使用できるサンプルグラフは、**Performance Manager** ユーザー インターフェイスから修正できません。**newconfig** ディレクトリにあるすぐに使用できるサンプルグラフは、読み取りは可能ですが、**Performance Manager** インターフェイス ユーザーが変更することはできません。ユーザー設計したグラフも、<PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリから **newconfig** ディレクトリに移動するだけで、修正不可能な状態にすることができます。

ただし、これらの操作が可能なのは、**Performance Manager** がインストールされているシステムにログオンしているユーザーだけです。グラフ テンプレートの修正は、**vi** エディタやメモ帳などのテキスト エディタを使用した場合のみ可能です。ユーザー インターフェイスからは、これらの変更は行えません。

グラフ テンプレート ファイルを移動すると、同じファミリーに属するすべてのグラフに変更が適用されます (文字列 **FAMILY** により識別されます)。

すぐに使用できるサンプル グラフの一部を修正した場合、グラフ テンプレートをもう一度コピーし、別の名前を付けてください。また、ファイル名は、ユーザー定義グラフで指定された表記法、**VPI\_GraphUser<graph\_family\_name>.txt** に従ってください。上記の表記法に従わないと、新しいグラフ名はユーザー インターフェイスには表示されません。

**newconfig** ディレクトリ内のグラフ テンプレート ファイルは、**data** ディレクトリのグラフ テンプレートとして使用しないでください。すべてのグラフ テンプレート ファイルには **VPI\_GraphUser<name>.txt** という名前が付けられます。ユーザー名が含まれる **newconfig** ディレクトリ内のグラフ テンプレートは作成しないでください。



- ユーザー定義グラフ テンプレート ファイルを、名前変更でファイル名のユーザーの部分を削除しないで、単に **data** ディレクトリから **newconfig** ディレクトリにコピーすることはしないでください。
- 2つの異なるグラフ テンプレート ファイルに同じファミリー名 **FAMILY:** を使用しないでください。このようにすると、ユーザー インターフェイスからグラフを表示するときに見分けにくくなります。

### グラフ テンプレートを、恒久的な場所に転送するには :

- 1 グラフを作成および保存後、**vi** またはメモ帳などのテキスト エディタを使用して、グラフ テンプレート ファイルを開きます。グラフ テンプレート ファイルは、デフォルトでは <data\_dir> ディレクトリに保存されます (ユーザー ログオンによります)。
- 2 **GRAPH:** および **END\_GRAPH:** の行を含むすべてのテキストをコピーします。
- 3 新しいファイルを作成するか、このテキストを既存ファイルの定義済みグラフ領域 (**newconfig**) に追加します。このファイルの名前は **VPI\_Graph<name>.txt** にしてください。
- 4 ファイルを <install\_dir>/newconfig/OVPM ディレクトリ (ユーザー テンプレート ファイルが保存されている <PM\_data\_dir>/conf/perf ディレクトリではなく) に保存します。

変更は、ユーザー インターフェイスに自動的に反映されます。既にユーザー インターフェイスを使用している場合、セッションを更新し、最新の変更を表示してください。

## 表グラフの行数の設定

Web サーバー設定セクションのパラメータ `TABLE_ROWCOUNT` を使用して、表グラフの行数のデフォルト値を設定することができます。このパラメータは、`OVPMconfig.ini` ファイルで使用できます。デフォルト値は **100** です。

ユーザー インターフェイスからデザイン ウィザードを使用して、またはグラフ テンプレートを編集することによって、グラフをデザインする際に、「ポイントの最大数」の値を指定した場合、この値は、`<PM_data_dir>/conf/perf` ディレクトリで使用可能な `OVPMconfig.ini` ファイルの `TABLE_ROWCOUNT` に指定された値を、上書きします。ただし、`TABLE_ROWCOUNT` に指定された値はすべての表グラフに適用できますが、グラフ作成中に「ポイントの最大数」に指定した値は、特定のグラフ テンプレートにしか適用できません。

例：表の行数を **500** に設定するには、`[WEB_SERVER]` セクションの `OVPMconfig.ini` に、次記のエントリを追加します。`TABLE_ROWCOUNT = 500`。



`TABLE_ROWCOUNT` パラメータに非常に大きな値を指定すると、パフォーマンスに影響する場合があります。



# 13 トラブルシューティングのヒント

## データ表示エラーのトラブルシューティング

トラブルシューティングが必要となるシナリオには、次のようなものがあります。

### データ コレクタを使用した Performance Manager のトラブルシューティング

Performance Manager はデータ コレクタを提供します。それを実行して、構成、トレース ファイル、ログ ファイル、バージョン番号などの情報を収集することができます。Performance Manager に関するあらゆる問題をトラブルシューティングする時に、このコレクタを使用して収集された情報を、サポート エンジニアが使用します。

コレクタは以下の場所にあります。

```
<install_dir>/support/OVGC/SelfHealing/bin
```

このコレクタを実行して、以下の構文をコマンド プロンプトから入力します。

```
collector -f< ファイル名 >.zip
```

この場合、ファイル名は zip ファイルの名前で、ログ ファイルのすべてのファイルを含んでいます。さらに、zip ファイルはファイル out.xml を含みます。このファイルは、コレクタが収集したすべてのファイルの概要 (コンポーネントの名前、バージョン、ディレクトリ、収集されたログ ファイルの説明など) を含みます。

### Performance Manager ホーム ページに内容が表示できない

Performance Manager へのログオン後、ホーム ページのヘッダーしか表示されません。

#### 原因

お使いのブラウザで JavaScript サポートが有効になっていないと、ホーム ページのコンテンツが表示できません。

#### 解決方法

Performance Manager ホーム ページを表示するには、Internet Explorer (IE) または Mozilla Firefox ブラウザの信頼済みサイトのリストに Performance Manager を追加し、JavaScript サポートを有効にします。

Performance Manager Web サーバー URL を信頼済みのサイトに追加するには：

- IE ブラウザの場合：
  - a Internet Explorer の**ツール** メニューを開き、**インターネット オプション**をクリックします。「インターネット オプション」のポップアップが表示されます。
  - b **セキュリティ** タブをクリックします。
  - c **信頼済みサイト** アイコンを選択します。
  - d **サイト**をクリックします。「信頼済みサイト」がポップアップ表示されます。
  - e Performance Manager Web サーバーの URL を入力し、**追加**をクリックします。入力した URL は、信頼済みサイトのリストに表示されます。
  - f 「閉じる」をクリックします。
  - g **OK** をクリックします。
  - h ブラウザを再起動します。
- Mozilla Firefox ブラウザの場合：
  - a **ツール** メニューで**オプション**をクリックします。**オプション**のポップアップが表示されます。
  - b **プライバシー** タブをクリックします。
  - c **例外**ボタンをクリックします。
  - d Web サイトのアドレス下のボックスに、Performance Manager Web サーバー URL を入力します。
  - e **許可**をクリックします。
  - f **閉じる**をクリックします。
  - g **OK** をクリックします。
  - h ブラウザを再起動します。

IE ブラウザ上で Performance Manager を信頼済みのサイトに追加しても、ホーム ページが表示できない場合は、次のステップに従って、Internet Explorer ブラウザの JavaScript サポートを有効にします。

- 1 Internet Explorer の**ツール** メニューから、**インターネット オプション**をクリックします。**インターネット オプション**のポップアップが表示されます。
- 2 **セキュリティ** タブをクリックします。お使いのブラウザのセキュリティのレベルが、「高」に設定されているかどうかを確認します。
- 3 「信頼済みのサイト」アイコンが選択されていることを確認して、**レベルのカスタマイズ**をクリックします。**セキュリティ設定**がポップアップ表示されます。
- 4 **スクリプト**のセクションまでスクロール ダウンし、**アクティブスクリプトを有効にする**オプションを選択します。
- 5 **OK** をクリックします。
- 6 **適用**をクリックします。

Mozilla Firefox ブラウザの場合：

- 1 ツール メニューで、**オプション**をクリックします。
- 2 **コンテンツ**をクリックします (Firefox バージョン 1.5 および 2.0)。
- 3 **JavaScript を有効にする** チェック ボックスを選択します。
- 4 **OK** をクリックします。

## Microsoft Excel および TSV 形式のデータが表示できない

### 原因

ブラウザのセキュリティ設定で **Microsoft Excel** および **TSV** 形式のファイルをダウンロードするオプションが有効になっているか確認する必要があります。

### 解決方法

ブラウザ設定を確認するには、次のタスクを実行します。

- 1 Internet Explorer の **ツール** メニューから、**インターネット オプション** をクリックします。「インターネット オプション」がポップアップ表示されます。
- 2 **セキュリティ** タブをクリックします。お使いのブラウザのセキュリティのレベルが、「高」に設定されているかどうかを確認します。  
「インターネット」アイコンを選択し、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。「セキュリティ設定」がポップアップ表示されます。



**Performance Manager** をローカル イン트라ネット アプリケーションとして使用している場合、「ローカル イン트라ネット」アイコンを選択してください。

- 3 「ダウンロード」のセクションまでスクロール ダウンし、「ファイルのダウンロード」で**有効にする** オプションを選択します。
- 4 **OK** をクリックし、「インターネット オプション」ポップアップを閉じます。
- 5 コントロール パネルを開き、**フォルダ** オプションをダブルクリックします。
- 6 「ファイルの種類」タブをクリックし、登録済みのファイルの種類を表示します。
- 7 登録済みのファイルの種類のリストから、**XLS** を選択します。**TSV** についても、リストから **TSV** ファイル形式を選択し、**詳細** ボタンをクリックします。「ファイルの種類編集」がポップアップ表示されます。
- 8 「ダウンロード後に開く確認をする」チェック ボックスをクリアします。
- 9 **OK** をクリックします。



登録済みのファイルの種類のリストに **TSV** が追加されていない場合、まずリストに追加してから、ファイルの種類の設定を編集してください。

## ポイント間隔の値を 1 時間より大きい値に設定した場合に、データが表示されない

ポイント間隔の値を 1 時間より大きい値に設定した場合、**Performance Manager** にデータが表示されません。

### 原因

**Performance Manager** では、ポイント間隔が 1 時間より大きい値に設定されており、エージェントと **Performance Manager** サーバーが同様なタイムゾーンにあるのに、システムの時間設定が同期化されていない場合に、データが表示されなくなります。

### 解決方法

エージェントの時間設定を確認します。エージェントの時間設定が、**Performance Manager** サーバーの時間設定と異なっている場合は、**Performance Manager** 管理者にお問い合わせの上、時間設定の同期化をしてください。

## 印刷ビューまたは ovpmbatch 出力でグラフを表示できない

グラフを印刷ビューで開いた場合、**Performance Manager** にグラフが表示されません。

### 原因

OVPMReportTemplate.htm が <PM\_data\_dir> で使用可能になっていないと、印刷ビューまたは ovpmbatch 操作によって生成された出力で、グラフを表示することができません。

### 解決方法

OVPMReportTemplate.htm が、<PM\_data\_dir> で使用可能かどうかを確認します。ファイルを使用できない場合は、OVPMReportTemplate.htm ファイルを <Install\_Dir>newconfig/OVPM ディレクトリから <PM\_data\_dir> にコピーします。

## 新しいセッションを開始しているのに、以前のグラフが表示される

**Performance Manager** にログオン後、別のユーザー ログインでセッションを開始しているのに、前のユーザー セッションで作成されたグラフが表示されます。

### 原因

グラフ作成時に、グラフ イメージがブラウザによりキャッシュされ、小さな変更を選択してグラフを再作成しても更新されません。

### 解決方法

- ブラウザのキャッシュをクリアします。
- 必要に応じて、新しいブラウザでグラフを表示します。



## 見つからないデータが識別できない

エージェントでは、ある特定の間隔のデータが記録されていないのに、**Performance Manager** でグラフを作成した時に、その間隔にも線が引かれています。

### 原因

**Performance Manager 8.10** は、以前のバージョンと異なり、見つからないデータをグラフ上で表示するように設定できません。作成されたグラフには、**Performance Manager** により、前後のデータ ポイントを結ぶ線が表示されます。

### 対処方法

取得されたデータ ポイントを示すマーカーを使用します。特定の期間のデータが見つからない場合、**Performance Manager** には線が表示されるだけで、マーカーは使用されません。これで、特定の間隔に見つからないデータ ポイントが識別可能となります。

また、グラフ上でマウスを動かすことで、特定の間隔のデータ ポイントがあるかどうかを確認することができます。その期間にデータ ポイントが見つかった場合、**Performance Manager** はそのポイントの値を表示します。

# Performance Manager サーバーのトラブルシューティング

## Performance Manager が自動的に起動しない

システムを再起動した後、Performance Manager が自動的に起動しません。

### 原因

HP OpenView コントロール サービスのサービス コンソールが「手動」起動に設定されている場合、システムを再起動した後、Performance Manager は自動的に起動しません。

### 解決方法

HP OpenView コントロール サービスは、デフォルトでは「自動」に設定されていません。HP OpenView コントロール サービスのサービス コンソールを「自動」起動に設定し、システムを再起動します。



HP OpenView コントロール サービスを「自動」起動に設定すると、お使いのシステムの再起動時に、このサービスを使用するすべての製品が自動的に起動されます。このサービスを使用するコンポーネントを表示するには、次のコマンドを実行します。

### **ovc -status**

本サービスにより制御しているすべてのコンポーネントのリストおよび状態が表示されます。

## Performance Manager にアクセスすることができない

デフォルトのネットワーク ポート設定により Performance Manager にアクセスすることができません。

### 原因

- お使いのシステムには、非ルート ユーザーまたはローカル システム アカウント権限を持たないユーザーが実行できるように **ovtomcatb** が設定されており、同じシステムに Performance Manager 8.10 がインストールされている場合、Performance Manager にアクセスできない場合があります。
- また、デフォルトの **http (8081)** または **https (8444)** ポートが他のアプリケーションで使用されている場合、これらの番号を使用して Performance Manager にアクセスすることはできません。

### 対処方法

- 非ルート ユーザーおよびローカル システム アカウント権限を持たないユーザーが実行できるよう **ovtomcatb** が設定されていないか確認してください。そのように設定されていた場合、管理者またはルート ユーザー権限を持つユーザーのみが **ovtomcatb** を実行できるよう、設定を変更します。

- Performance Manager に、URL **http://<systemname>:<portnumber>/OVPM** を使用してアクセスしてください。Performance Manager ホーム ページが表示されない場合、デフォルトのポートが使用されていないか確認してください。

▶ また、ポート番号に使用したい番号が、既に使用されていないか確認するため、次のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

Windows システム上 :

```
cd <install_dir>\bin  
cscript OvTomcatBctl.vbs -checkport <portnumber>
```

UNIX システム上 :

```
cd <install_dir>\bin  
OvTomcatBctl -checkport <portnumber>
```

ポートが使用可能か、使用されているかを示すメッセージが表示されます。

- ポート設定を変更する方法は、次の手順に従います。
  - a 以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行し、HTTP、HTTPS および ShutdownPorts のポート番号を変更します。

```
cd <Tomcat_dir>\b\bin  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPPort <port number>  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPSPort <port number>  
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set ShutdownPort <port number>
```

- b Performance Manager を再起動します。

## グラフ作成中のメモリ不足エラー

グラフを作成中に、Performance Manager に、メモリ不足のエラー メッセージが表示されます。

### 原因

メモリ不足のエラー メッセージは、Performance Manager サーバーの Java 仮想マシン (JVM) メモリが容量不足の場合に表示されます。Performance Manager サーバーの JVM がメモリ不足となる原因として、同時に処理すべき要求が多すぎる場合、またはグラフの作成やプレビュー中に大量のデータが取得される場合があげられます。

### 対処方法

- 1 Performance Manager サーバーの標準的な負荷を確認し、この負荷を処理できるように JVM 設定を修正します。詳細については、ページ 31 の **Java 仮想マシン メモリ** の設定を参照してください。
- 2 表示期間の選択を短くし、グラフを作成します。

## お気に入りのグラフ ファミリーが表示できない

グラフがお気に入りの追加されているのに、グラフ リスト ペインに、お気に入りのグラフ ファミリーが表示されません。

### 原因

顧客またはユーザーそれぞれのディレクトリに、VPI\_GraphsUserFavorites.txt が入っていない場合、お気に入りグラフ ファミリーを表示することができません。

### 解決方法

ユーザーまたは顧客を作成した時に作成される VPI\_GraphsUserFavorites.txt ファイルが、該当する顧客またはユーザーのディレクトリに入っているか確認します。このファイルが見つからない場合、VPI\_GraphsUserFavorites.txt.bkp ファイルを、<install\_dir>/newconfig/OVPM ディレクトリからコピーし、名前を VPI\_GraphsUserFavorites.txt に変更して、該当する顧客またはユーザーのディレクトリに保存します。

## ユーザー定義グラフが表示できない

Performance Manager 8.10 へのアップグレード後、OpenView Performance Manager サーバーに保存したユーザー定義グラフ テンプレートが見つかりません。

### 原因

OpenView Performance Manager サーバーに保存したユーザー定義グラフは、Performance Manager 8.10 へのアップグレード中に、以前のグラフ テンプレートを新しいデータ ディレクトリにコピーしない限り、表示されません。

### 解決方法

グラフ テンプレートが古いデータ ディレクトリから新しいデータ ディレクトリにコピーされているか確認します。新しいデータ ディレクトリに、テンプレートが見つからない場合は、Performance Manager サポート チームにお問い合わせください。

## Performance Manager ノードリストが表示できない

Performance Manager ノードリストがノードリスト ペインに表示されません。ただし、Operations Manager for Windows からインポートしたノードは、ノードリストに表示されます。

### 原因

Windows の Operations Manager がインストールされているシステムに、Performance Manager をインストールした場合、IMPORT\_OVPM\_NODELIST パラメータ (OVPMconfig.ini ファイル内) は、デフォルトで「False」に設定されており、IMPORT\_OVOW\_NODELIST は「True」に設定されています。詳細については、ページ 45 の [HP Operations Manager からノードリストをインポートする](#) を参照してください。

### 解決方法

Performance Manager ノードリストを使用するには、IMPORT\_OVPM\_NODELIST パラメータを「True」に設定します。

## このプログラムの使用は承認されていません、というエラーが表示される

Performance Manager のインストールが正常に終了したにもかかわらず、Performance Manager にアクセスすると、「このプログラムの使用は承認されていません。解決方法については、サポート チームにお問い合わせください。」というエラー メッセージが表示されます。

### 原因

このエラー メッセージは、お使いの Performance Manager ライセンス期限が切れた場合に表示されます。

### 解決方法

ライセンス期限が切れていないか確認します。期限切れの場合 Performance Manager ライセンス キーをインストールします。詳細については、ページ 25 の Performance Manager ライセンス キーのインストールを参照してください。

## HTTP ステータス 404 - /OVPM エラー

ブラウザから Performance Manager にアクセスしようとする、次のエラー メッセージが表示されます。

```
HTTP ステータス 404 - /OVPM エラー
```

```
-----  
---  
type Status report  
message /OVPM/  
description The requested resource (/OVPM/) is not available.  
-----  
---  
Apache Tomcat/5.5.20
```

### 原因

このエラー メッセージは、<INSTALLDIR>/www/webapps/OVPM ディレクトリが空の場合に表示されます。

### 解決方法

- hotfix ファイルが、正しくないディレクトリに展開されていないか確認します。
- もう一度、OvPMWeb.war ファイルを、<Install\_Dir>/newconfig/OVPM から <Install\_dir>/www/webapps/OVPM に展開します。

## バッチ モードでアップロードしたノードが表示されない

バッチ形式でアップロードしたノードがノードリストに表示されません。

### 原因

ノードをバッチでアップロードするときに例外が生じると、バッチ モードでアップロードされたノードは、ノードリストに表示されません。

### 解決方法

Performance Manager は、アップロード開始前に、既存の OVPMSystems.xml のデータを OVPMSystems\_bkp.xml として、自動的にバックアップします。例外の場合、壊れたファイルがバックアップされたファイルに置換されます。アップロード処理が再び失敗した場合、OVPMSystems\_bkp.xml の名前を OVPMSystems.xml に変更することもできます。既にアップロードされたノードリストが元に戻ります。

## Internet Explorer で、同時に 2 つを上回るグラフ作成の要求を送ることができない

グラフ作成中、ユーザーは、同時に 3 つ以上の要求を送信することができません。

### 原因

Internet Explorer に、同時に 3 つ以上の「グラフの作成」要求を送ることはできません。これは、HTTP クライアントが、Web サーバー上で開いている場合、HTTP 仕様 1 つにつき、同時に 3 つ以上の接続を保つことが許されていないためです。サーバーに 2 つの要求が送られてから、3 つ目の要求が送られます。

詳細については、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec8.html#sec8.1.4>

## Reporter 3.80 の統合が正常に行われない

Performance Manager には Reporter 3.80 の統合が設定されているにもかかわらず、Reporter をデータソースとして使用したり、Reporter からノードリストをインポートすることができません。

### 原因

Reporter を Windows 認証モードでインストールした場合、Reporter の統合を正常に行うことができません。

### 対処方法

- レジストリ キーを混合モードに設定します。詳細については、ページ 41 の [HP Reporter の統合](#)を参照してください。
- Reporter の統合用に OVPConfig.ini ファイル内で指定したポート番号が正しいか、確認してください。詳細については、ページ 41 の [HP Reporter の統合](#)を参照してください。

## OutOfMemoryException

Performance Manager 8.10 を HP-UX システムにインストール後、Performance Manager Web インターフェイスにアクセスを試みている時に、エラー "OutOfMemoryException" が表示されます。トレース ログ ファイルにも、同じエラーが表示されます。

### 原因

"OutOfMemoryException" エラーは、HP-UX 上で Java アプリケーションが作業を効率よく進めるために必要な Java Out-of-Box (JOOB) が Performance Manager システムにインストールされていない場合に生じます。

### 解決方法

Java Out-of-Box がシステムにインストールされているか、確認します。JOOB が Performance Manager システムにインストールされていない場合、これをインストールし、Performance Manager にアクセスしてください。

## 初回のシステム接続時、非常に時間がかかる

ノードの情報の表示またはグラフの作成を行う際、初回のノード接続に時間がかかります。

### 原因

デフォルトのデータ通信プロトコルは **HTTP(S)** であるため、**RPC** プロトコルによるエージェントとの初回通信時は、比較的時間が掛かります。同様に、デフォルトのプロトコルが **RPC** に設定されている場合、エージェントへの **HTTP(S)** プロトコルによる初回接続時は、比較的時間が掛かります。

### 解決方法

配備された環境に合わせて、ノードとの接続に使用するデフォルトのデータ通信プロトコルを確認します。ノードのほとんどに **RPC** が使用されている場合、OVPMconfig.ini ファイル内で、デフォルトのデータ通信プロトコルを **RPC** に変更します。また、ノードのほとんどに **HTTP** が使用されている場合、デフォルトのデータ通信プロトコルを **HTTP** に変更します。

ただし、Performance Agent データソースのデフォルトデータ通信プロトコル、および Performance Manager とエージェントの通信モードとして、**HTTP** を使用することをお勧めします。

## ノードを管理オプションが使用できない

ユーザーが Performance Manager に空欄の顧客としてログオンしているのに、「ノードを管理」メニュー オプションが使用できません。

### 原因

Performance Manager が自身のノードリストを使用するよう設定されていない場合、「ノードを管理」メニュー オプションは使用できません。

### 解決方法

Performance Manager が自身のノードリストを使用できるようにするには、**IMPORT\_OVPM\_NODELIST** パラメータ (OVPMconfig.ini ファイル内) を「True」に設定します。詳細については、ページ 45 の **HP Operations Manager** からノード リストをインポートするを参照してください。

## Hotfix for Performance Manager が正常に配備されたか確認できない

Hotfix for Performance Manager の配備後、Hotfix が正常に配備されたか確認することができません。

### 解決方法

- 次のコマンドをコマンド プロンプトで実行します。

**ovpm version**

このコマンドは、Performance Manager システムに配備された OvPMWeb.war ファイルのバージョンを表示します。

- Performance Manager ユーザー インターフェイスのヘルプ メニューから、**Performance Manager について**をクリックします。



# 統合関連のトラブルシューティング

## HP Operations Manager (HPOM) の統合

### 問題

Operations Manager コンソールから、グラフをデザインしているときに、ユーザーセッションが 1 時間以上稼動していない場合、セッションが期限切れとなり、ユーザーはシステムからログアウトされます。ユーザーが動作を再開すると、ログオンウィンドウが表示されます。

### 原因

Performance Manager への初回アクセス要求の送信中に、HPOM では、空欄の顧客のパスワードを受け付けるよう設定されているため、HPOM ユーザーはパスワードを入力する必要がありません。デフォルトでは、ユーザーセッションが 1 時間以上稼動していない場合、セッションの期限が切れて、ユーザーはシステムからログアウトされます。セッションがタイムアウトした場合、ユーザーはログインしなくてはなりません。

### 解決方法

パラメータ SESSION\_TIMEOUT (OVPMconfig.ini ファイル内) を使用して、ユーザーセッションの有効期限時刻またはタイムアウト間隔を設定することができます。

例：この期間を 24 時間または 48 時間に設定することができます。このパラメータについての詳細は、ページ 30 のセッションのタイムアウト間隔の設定を参照してください。

## Performance Manager のインストール後、Tomcat5.0 (OvTomcatA) がホストする他のアプリケーションまたは製品へのアクセスができない

コマンド `ovc -start` を実行すると、OvTomcatA と OvTomcatB の両方が同時に起動します。また、OvTomcatA と OvTomcatB の両方のログファイルが生成されます。OvTomcatA がホストするアプリケーションは、OvTomcatA と OvTomcatB の両方が稼動中でも、アクセスできなくなります。

### 原因

Tomcat の状態を確認するには、コマンド `ovc -status` を使用します。OvTomcatA の状態が稼動中であると示されていても、OvTomcatB がインストールされた後、http ポートは無効になります。これは、コマンド `ovc -start` を実行したときに、OvTomcatA の http ポートが有効になっていないためです。

### 対処方法：

まず、OvTomcatA の http ポートを手動で有効にし、それから OvTomcatA を再起動し、OvTomcatA がホストするアプリケーションにアクセスします。OvTomcatA と OvTomcatB を同時に稼動するには、コマンドプロンプトで以下の構文を実行します。

```
ovc -start
ovtomcatctl -enablehttp
ovc -restart ovtomcatA
```

デフォルトでは **OvTomcatA** はポート 8080 をリスンし、**OvTomcatB** はポート 8081 をリスンします。システムに **OvTomcatA** がインストールされているかどうかを確認するには、以下のコマンドを実行します。

HP-UX	- swlist -l fileset   grep -i HPOvTomcatA
Solaris	- pkginfo   grep -i HPOvTomcatA
Windows	Windows で確認するには、次のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 開始 -&gt; 実行をクリックします。</li><li>• <b>services.msc</b> と入力します。</li></ul> サービス コンソールに「HP OpenView Tomcat(A) サーブレット コンテナ サービス」が表示されるか確認します。

## アップグレード関連のトラブルシューティング

### Performance Manager 8.10 にアップグレードした後、フィルタが作動しない

OVPМ 5.00 および 6.00 でデザインしたグラフで作成したグラフ フィルタが、Performance Manager 8.10 へのアップグレード後、作動しません。

#### 原因

OVPМ バージョン 5.00 およびバージョン 6.00 は、ワイルドカード表現をサポートしています。Performance Manager 8.10 は、標準の表現をサポートしています。

#### 対処方法

フィルタの形式を、標準の表現に手動で変換する必要があります。

### Performance Manager へのアップグレード後、Performance Agent をデータソースとしてデザインしたグラフが、EPC に変更される

OVPМ 6.00 で HTTP データ通信プロトコルを使用したデータソースとして「Performance Agent (PA)」を用いて、作成したカスタム グラフが、Performance Manager 8.10 へのアップグレード後、グラフ テンプレートに [CODA] データ ソースとして保存されています。

#### 原因

Performance Manager 8.10 では、グラフ テンプレートの "CODA" データソースは、自動的に、グラフ テンプレートに "PA" でなく "EPC" をデータソースとするように変換されます。そのため、EPC データソースが使用可能な場合、データは [EPC] データソースから取得されます。

#### 対処方法

PA データソース (プロセス、アプリケーションなど) に特有のメトリックを選択した場合、PM 8.10 のグラフ テンプレートのデータソースを、"PA" に変更する必要があります。デザイン ウィザードを使用してグラフを編集し、データソースを [PA] に変更したうえで、グラフを保存します。グラフの編集方法については、*HP Performance Manager 8.10 チュートリアル*を参照してください。

## A OVPConfig.ini パラメータ

次の表は、Performance Manager を設定するために、OVPConfig.ini ファイル内で指定する必要があるパラメータのリストを示しています。

パラメータ	説明
<b>IMPORT_OVOW_NODELIST</b>	このパラメータは、"True" または "False" のいずれかを設定します。このパラメータを "True" に設定すると、Operations Manager for Windows から Performance Manager にノードリストがインポートされます。詳細については、ページ 45 の <a href="#">HP Operations Manager からノードリストをインポートする</a> を参照してください。
<b>IMPORT_OVPM_NODELIST</b>	このパラメータは、"True" または "False" のいずれかを設定します。このパラメータを "True" に設定すると、Performance Manager 自身のノードリストが使用されます。詳細については、ページ 45 の <a href="#">HP Operations Manager からノードリストをインポートする</a> を参照してください。
<b>TRACELEVEL</b>	このパラメータを使用して、トレースのオンとオフを切り替えることができます。このパラメータを "1" に設定すると、トレースがオンになり、トレース ログ ファイルが生成されます。  この設定を "0" にすると、トレースがオフになります。  トレースをオンまたはオフにするには、 <code>ovpm trace</code> コマンドを使用することをお勧めします。
<b>DEFAULT_DATACOMM</b>	このパラメータを HTTP、HTTPS、RPC のいずれかに設定することができます。HTTP を設定すると、Performance Manager は、エージェント実行中のシステムへの接続に HTTP をデフォルトのプロトコルとして使用します。詳細については、ページ 35 の <a href="#">通信プロトコル</a> を参照してください。
<b>DATACOMM_RETRY_TIMEOUT</b>	システムで実行中のエージェントに接続するには、Performance Manager はデフォルトのデータ通信プロトコル (たとえば HTTP) を使用します。正常な接続が HTTP により確立できた場合、RPC プロトコルにより接続を試みます。  同じエージェントシステムに別の要求を出す場合、上記のインスタンスで、HTTP プロトコルによる接続を試みたが、接続が正常に行われなかった場合は、Performance Manager はシステムへの接続に RPC プロトコルを使用します。  <b>DATACOMM_RETRY_TIMEOUT</b> パラメータの値を、たとえば 60 分と指定すると、Performance Manager により、デフォルトのデータ通信プロトコルによるシステムへの接続が 60 分後に再試行されます。値は分単位で指定します。

パラメータ	説明
<b>GRAPH_AUTOREFRESH_RATE</b>	このパラメータを使用して、Performance Manager によるグラフの自動更新の間隔を指定します。このパラメータで指定する値は、秒単位です。たとえば、値を 120 と指定すると、グラフは 2 分ごとに定期的に更新されます。詳細については、ページ 30 の <a href="#">自動更新の間隔の設定</a> を参照してください。
<b>SESSION_TIMEOUT</b>	このパラメータを使用して、ユーザーセッションの有効期限時刻またはタイムアウト間隔を設定することができます。このパラメータで指定する値は、分単位です。詳細については、ページ 30 の <a href="#">セッションのタイムアウト間隔の設定</a> を参照してください。
<b>JVM_MIN_MEMORY</b>	このパラメータを使用することで、Java 仮想マシン (JVM) のメモリ不足により生じるメモリ例外を防ぎ、Performance Manager が要求を受け付けなくなるよう設定します。詳細については、ページ 31 の <a href="#">Java 仮想マシンメモリの設定</a> を参照してください。
<b>MANAGE_DEFAULT_NODEGROUP</b>	このパラメータは、"True" または "False" のいずれかを設定します。このパラメータを "True" に設定すると、Performance Manager のノードグループにノードを追加する際、常にデフォルトのノードグループ "All" にノードを自動的に追加します。詳細については、ページ 45 の <a href="#">デフォルトノードグループの管理</a> を参照してください。
<b>RETAIN_BATCH_FILES</b>	このパラメータは、"True" または "False" のいずれかを設定します。このパラメータを "True" に設定すると、ovpmbatch バッチ処理後に生成されたすべてのファイルが保持されます。詳細については、ページ 69 の <a href="#">Performance Manager の日常的なメンテナンス</a> を参照してください。
<b>DAILY_MAINTENANCE_TIME</b>	このパラメータを使用して、保守タスクのスケジュール時刻を設定することができます。この値は、HH:MM 形式で指定します。詳細については、ページ 69 の <a href="#">Performance Manager の日常的なメンテナンス</a> を参照してください。
<b>[REPORTER]</b> <b>SYSTEM</b> <b>DSN</b> <b>TYPE</b> <b>USER</b> <b>PASSWORD</b> <b>PORT</b> <b>MINCONN</b> <b>MAXCONN</b> <b>CONNEXPIRE</b> <b>SLEEPTIME</b> <b>MAXRETRY</b>	OVPMConfig.ini ファイルのこの部分を使用して、Performance Manager への Reporter の統合を有効にすることができます。詳細については、ページ 41 の <a href="#">HP Reporter の統合</a> を参照してください。

パラメータ	説明
<b>SORTBY_MAX_GRAPH_COUNT</b>	インスタンス比較グラフの作成時に、Performance Manager ユーザー インターフェイスのメトリック データ表示順が " 平均値 " または " 逆平均値 " に指定されている場合、このパラメータを設定して、グラフ数を制限することができます。このパラメータを特定の数値、たとえば <b>25</b> に設定すると、作成するグラフ数は <b>25</b> 個に限定されます。このパラメータのデフォルト値は <b>20</b> です。
<b>TABLE_ROW_COUNT</b>	このパラメータを使用して、表グラフの行数のデフォルト値を設定することができます。このパラメータは、<PM_data_dir>/conf/perf ディレクトリの OVPMconfig.ini ファイルで使用できます。デフォルト値は <b>100</b> です。詳細については、 <a href="#">表グラフの行数の設定</a> を参照してください。
<b>DISABLE_TEMP_NODE_ADDITION</b>	<p><b>ノードを追加</b> オプションを有効または無効にすることができます。このオプションを使用して、<b>ホームページ</b> および <b>デザインウィザード</b> の <b>ノードの選択</b> 画面から、このパラメータを設定することによってノードを追加できます。デフォルトでは、このパラメータは OVPMconfig.ini ファイル内になく、<b>ノードを追加</b> オプションが有効で、すべてのユーザーが利用できます。</p> <p>パラメータ <b>DISABLE_TEMP_NODE_ADDITION</b> を <b>TRUE</b> に設定することにより、<b>ノードを追加</b> オプションを無効にすることができます。設定変更を有効にするには、Performance Manager を再起動する必要があります。</p> <p>この設定は、全ユーザー（読み取り専用、表示専用、空欄 / 管理）に対して、一時的な <b>ノードを追加</b> オプションを取り消します。しかし、空欄のユーザーは、<b>ノードを管理</b> 画面を使用してノードを恒久的に追加することができます。</p> <p>このオプションは、これを「<b>FALSE</b>」に設定するか、またはパラメータ <b>DISABLE_TEMP_NODE_ADDITION</b> を OVPMconfig.ini ファイルから削除することによって、リセットすることができます。</p>





